

# NETGEAR®

---

## ReadyNAS RAIDiator 5.x

ソフトウェアマニュアル

ReadyNAS Duo v2

ReadyNAS NV+ v2

350 East Plumeria Drive  
San Jose, CA 95134  
USA

2011年11月  
202-10900-01

© 2011 by NETGEAR, Inc. All rights reserved.

### テクニカルサポート

電話によるサポートサービスを受けるには、ウェブサイトまたはお電話による事前登録が必要です。世界各地のカスタマーサポートセンターの電話番号は、本製品付属の保証およびサポート情報カードに記載されています。

ウェブサイト <http://www.netgear.jp/supportInfo/> で製品のアップデートおよびウェブサポートに進んでください。

### 商標

NETGEAR、NETGEAR のロゴ、ReadyNAS、NeoTV、X-RAID、X-RAID2、FrontView、RAIDar、RAIDiator、Network Storage Processor、および NSP は NETGEAR, Inc. の商標および登録商標です。Microsoft、Windows、Windows NT、および Vista は Microsoft 社の登録商標です。その他のブランドや製品名は、それぞれの所有者に帰属する商標または登録商標です。

### 免責事項

製品の内部設計、操作性や機能性、信頼性などを改善するため、NETGEAR は本書に説明された製品に予告なく変更を加えることがあります。

NETGEAR は、本製品の使用や適用、または製品の回路設計によって起こりうる一切の責任を負いかねます。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI—B

# 目次

<b>第 1 章 はじめに</b>	
クイックスタートガイド	7
追加ドキュメント	7
ディスクが同梱されていないモデル	7
RAIDar	8
セットアップウィザード	12
Register Your System	15
<b>第 2 章 ディスク構成</b>	
基本ディスク構成について	18
RAID	18
ボリューム	18
X-RAID2	19
Flex-RAID	20
ディスク構成の管理	21
ボリュームの拡張	21
RAID モードの変更	22
<b>第 3 章 共有</b>	
共有の基本概念	30
データの管理	30
ファイル共有プロトコル	31
アクセス権限	31
ファイルおよびフォルダ名	31
共有の作成	32
共有の管理	33
共有を表示	33
共有のアクセス権限の微調整	34
フォルダの作成	35
フォルダを削除	36
共有を削除	37
共有へのアクセス	38
Windows を使ったファイルへのアクセス	38
Mac OS X を使ったファイルへのアクセス	38
Mac OS 9 を使ったファイルへのアクセス	40
Linux または Unix を使ったファイルへのアクセス	41
ReadyNAS Remote を使った共有へのアクセス	42

**第 4 章 ユーザーアカウント**

ユーザーの基本概念	47
ユーザーアカウント	47
ユーザーアカウントの作成	47
ユーザーアカウントの編集	49
ユーザーアカウントの削除	50

**第 5 章 システム設定**

システム構成	52
時計	52
警告	53
言語	56
管理者パスワード	57
システムシャットダウン	60
ネットワーク設定	61
イーサネット	61
DNS	63
ホスト名とワークグループ	64
アドオン	66
アドオンの管理	66
ダッシュボードでアドオンを検索し、インストール	67
スタンドアロンアドオンのインストール	68
USB ストレージデバイス	69

**第 6 章 監視と維持管理**

監視	71
システム動作状況	71
システムログ	71
維持	72
ファームウェア	72
パワータイマー	74
UPS	75

## 第7章 バックアップと復元

バックアップの基本的概念 .....	77
ReadyNAS システムに保存されたデータのバックアップ .....	80
ReadyNAS システムにデータを復元する .....	84
ネットワーク接続デバイスに保存されたデータのバックアップ .....	88
データをネットワーク接続デバイスに復元する .....	92
バックアップジョブの管理 .....	96
バックアップジョブの編集 .....	96
バックアップジョブの削除 .....	97
バックアップジョブを手動で開始する .....	98
バックアップログを表示する .....	98
バックアップボタンの設定 .....	99
Time Machine .....	100

## 付録 A 適合性に関する情報

### 索引

# はじめに

---

# 1

この NETGEAR® ReadyNAS RAIDiator 5.x ソフトウェアマニュアルでは、ReadyNAS ストレージシステムの構成および管理方法について説明しています。

お買い上げいただいた ReadyNAS® ストレージシステムは、次のソフトウェアを搭載しています。

- **RAIDar:** このセットアップユーティリティを使用し、LAN 上で ReadyNAS システムを検出し、ダッシュボードを起動します。
- **ダッシュボード:** ブラウザベースのインターフェースで、ReadyNAS システムの構成と管理を行います。

この章には次の内容が含まれます。

- [クイックスタートガイド](#)
- [追加ドキュメント](#)
- [ディスクが同梱されていないモデル](#)
- [RAIDar](#)
- [セットアップウィザード](#)
- [Register Your System](#)

## クイックスタートガイド

本マニュアルでは、ReadyNAS に関する概念、システムのご利用に関する詳しい説明、および NETGEAR の推奨するシステム構成、管理、バックアップについて記載しています。ReadyNAS をご利用になる前に、まず本マニュアルをよくお読みください。

システムをすぐに使い始めるには、以下の手順に従ってください。

1. **RAIDar** (8 ページ) : RAIDar を使ってネットワーク上の ReadyNAS を検出します。
2. **セットアップウィザード** (12 ページ) : 簡単なステップで、システムの初期設定を行うウィザードです。
3. **共有の作成** (32 ページ) : 共有はフォルダやディレクトリに似ており、ReadyNAS システムに保存したデータを管理する手段の 1 つです。
4. **ユーザーアカウント** (47 ページ) : ご利用の ReadyNAS システムへのアクセスを許可するユーザー 1 人に対し、1 つのユーザーアカウントを作成します。
5. **バックアップの基本的概念** (77 ページ) : ReadyNAS システム に保存したデータをバックアップし、ReadyNAS システムを利用してバックアップしたデータを他のデバイスに復元することができます。

## 追加ドキュメント

NETGEAR は ReadyNAS 製品をサポートするコミュニティ Web サイトを運営しています。当ウェブサイト <http://readynas.com/ja/> にてレビュー、比較チャート、ソフトウェア更新、書類、ユーザーフォーラムなどをご利用ください。

システムのハードウェアに関しては、*ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* をご覧ください (<http://www.readynas.com/ja/documentation>)。

## ディスクが同梱されていないモデル

ディスクが同梱されていない ReadyNAS ストレージシステムをご利用の場合、RAIDar またはダッシュボードを使い始める前に、少なくとも 1 台のディスクをインストールし、フォーマットしてください。詳しくは *ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* をご覧ください。

NETGEAR のテクニカルサポートをご利用になる場合は、ご利用の ReadyNAS システムに含まれるハードウェア互換性リストに記載のあるディスクをお使いください。このリストは、[http://www.readynas.com/ja/?page\\_id=82](http://www.readynas.com/ja/?page_id=82) で入手することができます。

## RAIDar

RAIDar は、ネットワーク上の ReadyNAS ストレージシステムを検出するためのソフトウェアアプリケーションです。RAIDar は、お買い上げの本体に付属の リソース CD に含まれています。CD には RAIDar の Windows、MAC、Linux OS 版が含まれます。また、<http://www.readynas.com/ja/?cat=41> からダウンロードいただけます。

RAIDar にはシステムの状態を示すアイコンがあります。下表の説明をご覧ください。

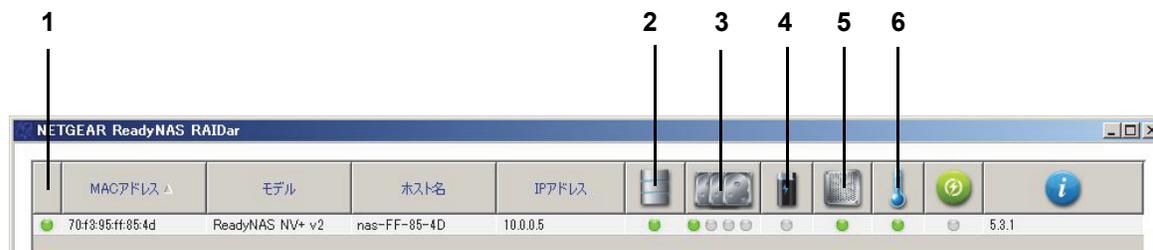


図 1 RAIDar アイコン

1. 全体
2. ボリューム
3. ディスク
4. UPS
5. ファン
6. 温度

下表は各 LED アイコンの説明です。

表 1. RAIDar LED アイコンの説明

LED アイコン	説明
	ディスクまたはデバイスが接続されていません。
	デバイスが正常に動作しています。
	デバイスの故障、または注意が必要です。
	ディスクはスペアディスクとしてスタンバイしています。ディスクが故障した場合、このディスクが自動的に置き換わります。
(点滅)	ディスクは再同期実行中です。

表 1. RAIDar LED アイコンの説明 ( 続き )

LED アイコン	説明
	<p>ボリュームはライフサポートモードです。 複数のディスクが故障し、完全に使用できなくなっています。ただし、本体起動中に誰かが間違っ てディスクを取り外してしまった場合などは、復旧が可能です。間違っ てディスクを取り出してしまった場合は、すぐに本体をシャットダウンし て、ディスクを再接続してから本体を再起動してください。</p> <p><b>注意：</b> 本体起動中にディスクを再接続すると、新規に追加された ディスクとして認識され、ディスク上のすべてのデータは初期化プロセス で消去されてしまいます。</p>
	システム更新などの長時間のタスクがバックグラウンドで進行中です。

次のボタンを押すと、ネットワーク上の ReadyNAS システムについて参照できます。

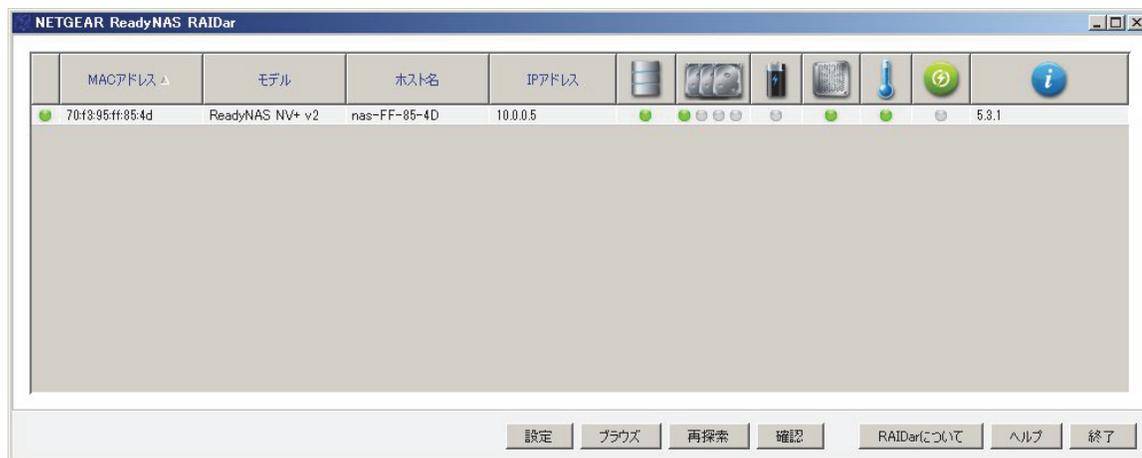
- **設定：** 選択されたシステムのダッシュボードを起動します。
- **ブラウズ：** 選択されたシステムで利用可能な共有を表示します。この機能は、Windows でのみ有効です。
- **再探索：** ネットワーク上の ReadyNAS システムの各ステータスを更新します。
- **確認：** 選択されたシステムの LED が点滅します。これは、複数の ReadyNAS ストレージシステムがあり、どの RAIDar がどの本体に対応するかを判断する際に便利です。
- **RAIDar について：** RAIDar 情報を表示します。
- **ヘルプ：** ヘルプ画面を表示します。
- **終了：** RAIDar を終了します。

➤ **ReadyNAS システムを検索し、ダッシュボードを起動する**

1. ReadyNAS ストレージシステムと同じ LAN に接続されているコンピューターに、適切なバージョンの RAIDar をインストールします。
2. SP2 より前の Windows XP を使用している場合は、インターネット接続ファイアウォールを無効にしてください。

### 3. RAIDar を起動します。

RAIDar はネットワーク上にある ReadyNAS システムのリストや各システムのステータスを表示します。



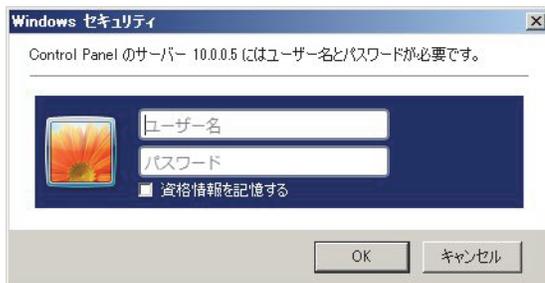
デフォルト IP 構成は DHCP に設定されています。多くの場合、お使いのルーターに内蔵された DHCP サーバーが、ReadyNAS に IP アドレスを割り当てます。

DHCP サーバーをお持ちでない場合、または正しく動作していない場合、ReadyNAS は IP アドレスを取得できません。この場合、192.168.168.168 を使用します。この場合は、ReadyNAS とコンピューターを直接接続をしなければなりません。接続を確立するにはコンピューターのオペレーティングシステムを、ReadyNAS と同じ 192.168.168 の IP サブネットに所属するよう設定してください。

ReadyNAS デバイスが検出されない場合、以下を確認して [再探索] をクリックしてください。

- ReadyNAS デバイスの電源が投入され、ネットワークに接続されていることを確認します。
- RAIDar を実行しているクライアントコンピューターが ReadyNAS デバイスと同じサブネット上にあることを確認します。
- SP2 より前の Windows XP で RAIDar を実行している場合は、インターネット接続ファイアウォールを無効にしてください。

4. ご利用の ReadyNAS システムを選択し、[設定] ボタンをクリックします。  
ブラウザが開き、ReadyNAS にログインするよう指示が表示されます。



5. デフォルトのログイン認証を使ってログインします。
  - デフォルトユーザー名 : admin
  - デフォルトパスワード : password

ユーザー名とパスワードは、いずれも大文字と小文字を区別して入力してください。

初めて ReadyNAS システムに接続する場合は初期設定をするためのセットアップウィザードが表示されます。このウィザードは、ReadyNAS を工場出荷時にリセットした後初めてログインする際にも表示されます。工場出荷時の状態にリセットする方法については、*ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* を参照してください。

それ以外の状態でログインすると、ダッシュボードが表示されます。

## セットアップウィザード

初めてダッシュボードを起動すると、セットアップウィザードが表示されます。

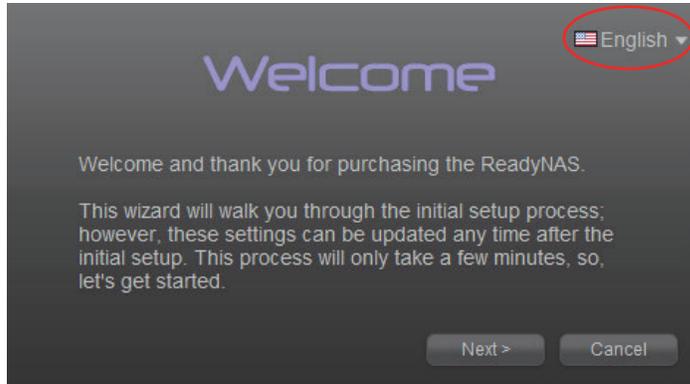


図 2 セットアップウィザードの初期画面

セットアップウィザードにより ReadyNAS をスムーズに設定するための手順が順番に表示されます。右上に表示される言語のドロップダウンメニューをクリックして言語を選択します。ウィザードの指示に従い、次を設定してください。

- **日付と時刻** : 詳しくは 52 ページの *時計* をご覧ください。
- **警報メールの受取人** : 詳しくは 54 ページの *警告の送信先メールアドレス* をご覧ください。
- **ホスト名とワークグループ** : 詳しくは 64 ページの *ホスト名とワークグループ* をご覧ください。
- **管理者パスワードとパスワード復元の質問と答え** : 詳しくは 57 ページの *管理者パスワード* をご覧ください。
- **製品登録** : 詳しくは 7 ページの *ディスクが同梱されていないモデル* をご覧ください。

ウィザードを完了すると、ダッシュボードが表示されます。下図はダッシュボードのホーム画面です。



図 3 ダッシュボードのホーム画面

[設定] ボタンをクリックし、ReadyNAS システムを設定、管理、監視するための画面にアクセスします。

設定ボタンをクリックすると、共有画面が表示されます。



図 4 ReadyNAS ダッシュボードの共有画面

1. ナビゲーションバー
2. ダッシュボードボタン
3. ステータス

画面上部に表示されるナビゲーションバーは、ダッシュボードで設定できる項目を表示しています。ダッシュボードのホーム画面に戻るには、[ダッシュボード] ボタンをクリックします。

画面下のステータスバーは、システムの状態や、下記の情報を表示します。

- 日付と時刻
- ボリューム
- ファン
- 温度
- UPS

ステータス LED アイコンの上にカーソルを置くと、ReadyNAS の情報が表示されます。また、ステータス LED または日付と時刻をクリックすると、関連するダッシュボード画面が表示されます。

## Register Your System

Registration is required before you can use the NETGEAR telephone support service. If you did not register your ReadyNAS system during the setup wizard process, you can register it using Dashboard or by accessing the NETGEAR Product Registration website directly.

日本国内でご購入いただいたお客様は、下記の URL よりネットギアジャパンのホームページへお進みいただき、ユーザー登録を行ってください。  
<http://www.netgear.jp/supportInfo/>

### ➤ To register your system using Dashboard:

#### 1. Click **Configure > System > Hardware**.

The Hardware screen displays.



#### 2. Click the **Register** button.

Your browser displays a registration page listing information about your ReadyNAS system.

Register your product and be eligible for offers and other exclusive upgrades from Netgear

Please complete the form below to register your product

**Product:** ReadyNAS-NV v2  
**Serial number:** 70f395ff8572  
**Firmware:** RAIDiator 5.3.1-T52  
**Memory:** 256  
**MAC address:** 70:f3:95:ff:85:72  
**RAID level:** X2  
**Hard disk #1:** Seagate, Seagate ST3250620NS, 9QE33GJE, 3.AEG  
**Email:**   \*\*

*\*\* If you enter a valid email address, you will be sent a username and password, giving you access to the NETGEAR customer support site, which will allow you to view your support history and purchase extended warranty options.*

#### 3. Enter a valid email address in the Email field and click the > button.

#### 4. Follow the prompts.

Your system is registered.

➤ **To register your system using the NETGEAR Product Registration website:**

1. Locate the serial number on the label of your product.
2. Using a browser, visit <http://www.NETGEAR.com/register>.

The product registration web page displays.

### NETGEAR Product Registration

Thank you for buying a NETGEAR product! By registering your product, we can help you have a better experience using our products.

First-time registration	Returning users
<p>There are several benefits to registering your NETGEAR products which includes:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>› Access to telephone support for your NETGEAR products</li><li>› Special offers from NETGEAR only for registered customers</li><li>› An online list of all of your registered NETGEAR products</li><li>› <a href="#">Activate your support contract(s)</a></li></ul> <p><input type="button" value="Continue"/></p>	<p>If you already registered a product with NETGEAR, log in to your account</p> <p>E-mail address: <input type="text"/></p> <p>Password: <input type="password"/></p> <p><input type="button" value="Log in"/></p> <p><a href="#">Forgot your password?</a></p> <p><a href="#">Is my product under warranty?</a></p>

If you have never registered a NETGEAR product, click the **Continue** button.

If you have registered a NETGEAR product in the past, enter your email address and password and click the **Log in** button.

3. Follow the prompts.

Your system is registered.

# ディスク構成

---

# 2

この章では、ReadyNAS ストレージシステムでディスクを構成する方法について説明しています。次の内容が含まれます。

- [基本ディスク構成について](#)
- [ディスク構成の管理](#)

## 基本ディスク構成について

ディスク構成の概念を理解することで、ReadyNAS ストレージシステムを最大限に活用することができます。また、それにより ReadyNAS ストレージシステムの構成、管理、使用方法について正しい判断ができるようになります。

ReadyNAS のハードディスクは、様々な方法で構成することができます。もっとも一般的なのは、各種 RAID 技術を使った方法です。

### RAID

RAID は Redundant Array of Independent Disks の略です。RAID はストレージシステムのデータをどのように配分するかによって、データ保護、システムパフォーマンス、保存容量のバランスをとるストレージ技術です。データ配分の方法は、各種 RAID レベルで決まっています。各 RAID レベルによってデータ保護、システムパフォーマンス、保存容量のどれを重視するかが異なります。たとえば、ある RAID レベルはデータ保護に長けていますが、保存容量は減少するかもしれません。ある RAID は保存容量を確保できるものの、システムパフォーマンスが劣っているかもしれません。

ReadyNAS ストレージは、管理のしやすい独自のシングルボリューム RAID 構造を持つ X-RAID2™ と、ディスクを各 RAID レベルにフォーマットできる Flex-RAID に対応しています。

### ボリューム

一般的に、ボリュームはデータを保存するデバイスです。コンピューターにとってボリュームはハードディスクや外付け USB メモリーを指します。

ボリュームには、物理ボリュームと論理ボリュームがあります。通常、物理ボリュームはハードディスクドライブを指します。その場合、2 ベイストレージシステムでは最大 2 つの物理ボリューム（ハードディスク）を持つことができ、4 ベイストレージシステムでは最大で 4 つまでの物理ボリューム、6 ベイストレージシステムには最大で 6 つまでの物理ボリュームを持つことができます。

論理ボリュームとは、ストレージ容量を分割したり、パーティションに分けたりすることを指します。

- 1 つの論理ボリュームが 1 つのハードディスクドライブを指すこともあります。
- 1 つの論理ボリュームが複数のハードディスクドライブから成る場合もあります。

本書では、ボリュームとは論理ボリュームを指し、ハードディスクドライブおよびディスクは物理ボリュームを指します。

## X-RAID2

X-RAID2 は自動拡張の RAID 技術であり、ReadyNAS システムでのみご利用いただけます。X-RAID2 を利用すれば、RAID の詳細が分からなくても問題ありません。X-RAID2 は、ドライブをフォーマットしたり、他の場所にデータを移しかえたりせずに、ストレージスペースを追加することができます。拡張はオンラインで行われるため、ボリューム拡張が行われている最中でも ReadyNAS を使い続けることができます。

X-RAID2 はシングルボリューム構造を起用しているため、X-RAID2 を利用してハードディスクドライブを構成すると、ストレージシステムはインストールされたすべてのハードディスクドライブを使って 1 つのボリュームを作成します。X-RAID2 のシングルボリューム構造には、2 つの大きなメリットがあります。

- 簡単なシステム管理
- 自動拡張

通常の RAID フォーマットでディスクを追加したり、または容量の大きなディスクに交換したりする場合、データを別のディスクにバックアップし、新しいディスクを追加し、RAID ボリュームをフォーマットしなおし、そしてデータを新しい RAID ボリュームに復元しなければなりません。しかし、X-RAID2 ではこうした管理操作が一切必要ありません。X-RAID2 では、ディスクを追加したり、容量の大きなディスクに交換すると、ボリュームがそれに合わせて自動的に拡張されます。

X-RAID2 はハードディスク 1 つから利用することができ、データ保護のために 2 つ目のディスクを追加、さらに容量を増やすために 3 つ目以降を追加することができます。X-RAID2 は自動的に新しいディスクに適合します。既存のディスクを容量の大きなディスクに交換すると、X-RAID2 は自動的に新しいディスクに適合します。

X-RAID2 でディスク故障に対応するためのディスク保護機能を利用するには、2 つのハードディスクが必要となります。1 つのディスクを搭載した X-RAID2 ストレージシステムをお持ちで、ディスクを故障から保護したい場合は、少なくとも 1 つ目のディスクと同じ容量を持つ 2 つ目のディスクを追加する必要があります。ディスクは ReadyNAS 実行中でも追加することができます。

X-RAID2 は 1 つ目のディスクをデータ保存に使用し、2 つ目のディスクにはディスクが故障した際にデータを再構築するためのパリティ情報を保存します。つまり、2 つのディスクを搭載した場合、利用可能なのは 1 つのディスクのみとなります。3 つのディスクを搭載した場合、2 つのディスク分の容量が使用可能となり、4 つのディスクを搭載した場合は 3 つのディスク分の容量が使用可能となります。

下図は X-RAID2 で新しいディスクを使用する方法を示しています。

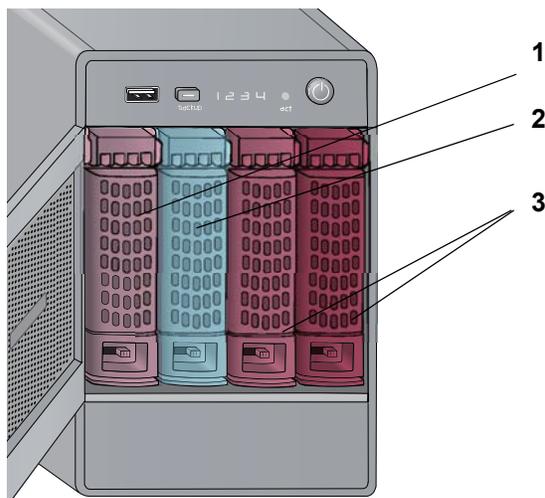


図 5 X-RAID2 におけるディスクの使用

1. 初期ストレージ容量
2. データ保護
3. 追加のストレージ容量

## Flex-RAID

NETGEAR の Flex-RAID 技術は、各 RAID レベルから選ぶことができます。

- **RAID 0:** もっとも単純な RAID レベルです。RAID と呼ばれるものの、冗長性を提供していないため、このディスクが故障した場合はデータが保護されません。RAID 0 は読み書きの処理を複数のディスクに対して並行して実行するため、RAID 形式ではないディスクよりも優れたパフォーマンスを提供することができます。ストレージシステムの総容量は、すべてのディスクドライブの容量と同様です。
- **RAID 1:** この RAID レベルは複数のディスクに同一のデータを書き込むため、データの完全な冗長性を提供します。RAID 1 では、まったく同じデータが 2 つ、またはそれ以上のディスクに同時に保存されます。RAID 1 は、1 つのディスクが故障した場合、データが失われるのを防ぎます。RAID 1 には少なくとも 2 つ以上の偶数ディスクが必要です。2 つのディスクを搭載したシステムでは、ストレージシステムの総容量はもっとも小さいディスクの容量と同様になります。
- **RAID 5:** ReadyNAS ストレージシステムで最低でも 4 つのドライブベイを利用している場合に有効です。RAID 5 では、1 つのディスクを別のディスクが故障した場合のデータ保護に使用します。ストレージシステムの総容量は、すべてのディスクドライブの容量から 1 つのディスク容量を差し引いたものと同様になります。

Flex-RAID ではディスクに JBOD フォーマットを選ぶこともできます。JBOD は単純ディスク束 (Just a Bunch of Disks) の略で、RAID 技術を使って構成されていない複数のハードディスクを指します。それぞれのディスクは単独でコンピューターに認識されます。JBOD は、データ保護のためのストレージ容量を持っていないため、ディスクが故障してもデータ保護を提供することはできません。ただし、ストレージ容量を最大限に利用することができるため、JBOD を好んで使うユーザーもいます。

## ディスク構成の管理

ダッシュボードを使い、ReadyNAS のハードディスク構成を管理することができます。

### ボリュームの拡張

ダッシュボードは、ReadyNAS ストレージシステムにディスクが追加されると、自動的にボリューム拡張の管理を行います。この拡張は ReadyNAS システムを使用している最中でもバックグラウンドで実行されます。ボリューム拡張プロセスには数時間を要する場合があります。システムのメール通知を設定した場合、拡張プロセスが完了するとメールが送られてきます。通知機能についての詳細は 53 ページの **警告** をご覧ください。

#### *X-RAID2* ボリュームの拡張

X-RAID2 ボリュームを拡張するには、ReadyNAS ストレージシステムにディスクを 1 つ追加します。ボリュームは、ストレージシステムを使用している最中にバックグラウンドで拡張されます。ReadyNAS にディスクを追加する方法については、*ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* を参照してください。

2 つ目のディスクを追加すると、新たに追加されたディスクはデータ保護に使われます。3 つ目または 4 つ目のディスクを追加すると、新たに追加されたディスクは追加のストレージ容量として使われます。詳しくは 19 ページの *X-RAID2* をご覧ください。

#### *Flex-RAID* ボリュームの拡張

Flex-RAID ボリュームを拡張するには、ReadyNAS ストレージシステムにディスクを 1 つ追加します。ReadyNAS にディスクを追加する方法について詳しくは、*ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* を参照してください。

ボリュームは、ReadyNAS を使用している最中にバックグラウンドで拡張されます。下表は ReadyNAS でどのように拡張が行われるかをまとめたものです。

表 2. Flex-RAID ボリューム拡張の動作

Flex-RAID フォーマット	現在インストールされているディスク数	追加されたディスク数	ボリューム拡張の動作
RAID 0	いくつでも	いくつでも	新しい RAID 0 ボリュームが追加したディスクに作成されます。
RAID 1	2	1	新しいディスクで構成された RAID 1 がもう1つ作成されます。RAID1 でデータ保護を行うには、1 つのボリュームにつき 2 つのディスクが必要となるため、このボリュームではデータ保護は提供されません。
	2	2	RAID 1 ボリュームがもう 1 つ作成されます。
	3	1	既存の 2 つ目のボリュームに新しいディスクが追加されました。このボリュームはデータ保護なしの状態 (1 つのディスクだけだったため) がデータ保護ありの状態に変わります。つまり、4 つ目のディスクはデータ保護に使われ、ストレージとしては使われません。
RAID 5	3	1	新しいディスクは既存のボリュームに追加されます。
JBOD	いくつでも	いくつでも	新しい JBOD ボリュームが追加したディスクに作成されます。

## RAID モードの変更

ReadyNAS ストレージシステムの RAID モードを変更することができます。このプロセスではすべてのデータが消去されます。ReadyNAS にデータが保存されている場合は、RAID モードを変更する前にデータを別のストレージデバイスでバックアップしてください。

このプロセスでは、ReadyNAS を工場出荷時の状態に初期化する処理を行い、RAIDar を用いてボリュームの設定を行います。

### *Flex-RAID から X-RAID2 に変更*

ReadyNAS システムを Flex-RAID モードから X-RAID2 モードに再構成することができます。

#### ➤ Flex-RAID から X-RAID2 に変更

1. ReadyNAS にデータが保存されている場合は、データをバックアップしてください。

詳しくは 80 ページの ReadyNAS システムに保存されたデータのバックアップをご覧ください。

2. 工場出荷時の状態にリセットします。



## 警告！

ReadyNAS システムを工場出荷時の状態にリセットすると、すべてのデータと構成が消去されます。

工場出荷時の状態にリセットする方法は、機種により異なります。工場出荷時の状態にリセットする方法については、*ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* を参照してください。

工場出荷時の状態にリセットする場合、RAID 構成を選ぶ時間が10分間あります。RAIDar はこの 10 分の間に [設定をクリック] という指示を送ります。

3. RAIDar を起動し、ReadyNAS を選択し、[設定] ボタンをクリックします。

ReadyNAS ボリュームの設定画面が表示されます。



10分以内に選ばない場合、システムは以前使っていたものと同じモードで再起動します。

4. [拡張可能なボリューム (X-RAID2)] のラジオボタンを選択します。
5. (オプション) [詳細] ボタンを押して X-RAID2 または Flex-RAID に関する詳細をご覧ください。

ポップアップウィンドウが表示されます。[OK] ボタンを押して終了します。

6. [初期化の開始] ボタンをクリックします。

ボリューム作成を確認するダイアログボックスが表示されます。

7. [OK] ボタンをクリックします。

ボリュームがフォーマットされます。ハードディスクドライブのサイズにより、フォーマットにはかなりの時間がかかる場合があります。

8. (オプション) バックアップされたデータを再フォーマットされたディスクに復元します。  
詳しくは 84 ページの ReadyNAS システムにデータを復元するをご覧ください。

### *X-RAID2 から Flex-RAID に変更*

システムを X-RAID2 モード (工場出荷時のモード) から Flex-RAID モードに変更することができます。

▶ **X-RAID2 から Flex-RAID に変更**

1. システムにデータが保存されている場合は、データをバックアップしてください。  
詳しくは 80 ページの ReadyNAS システムに保存されたデータのバックアップをご覧ください。
2. 工場出荷時の状態にリセットします。



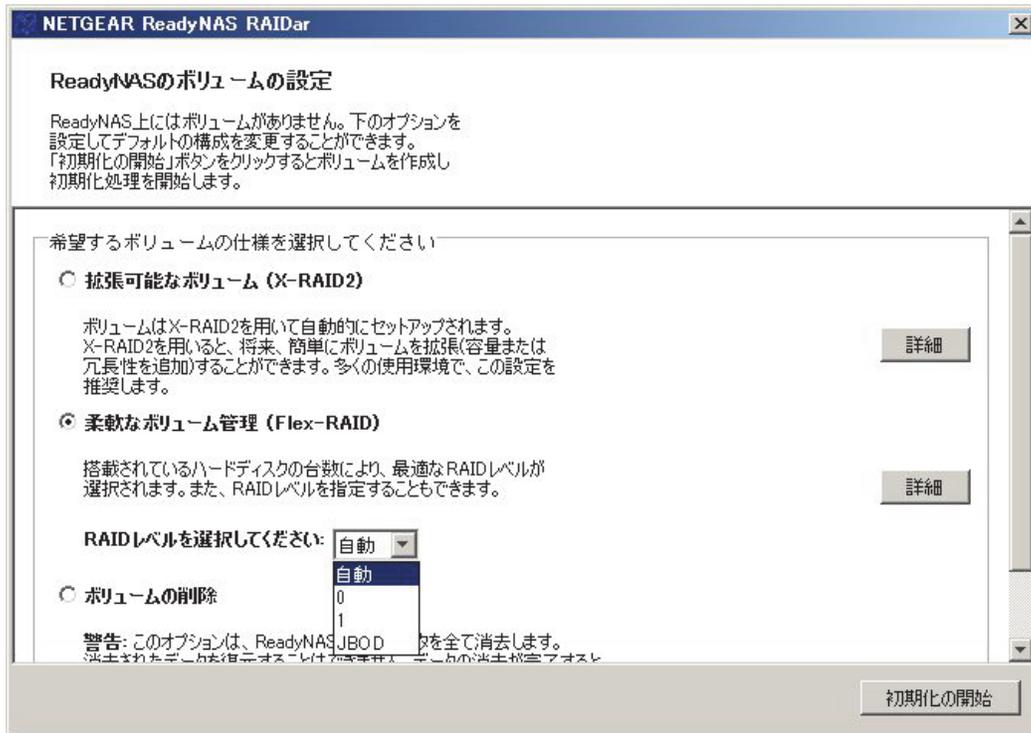
**警告!**

**ReadyNAS システムを工場出荷時の状態にリセットすると、すべてのデータと構成が消去されます。**

工場出荷時の状態にリセットする方法は、機種により異なります。工場出荷時の状態にリセットする方法については、*ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル*を参照してください。

工場出荷時の状態にリセットする場合、RAID 構成を選ぶ時間が 10 分間あります。RAIDar はこの 10 分以内に [設定をクリック] という指示を送ります。

3. RAIDar を起動し、ReadyNAS をハイライトし、[設定] ボタンをクリックします。  
ReadyNAS ボリュームの設定画面が表示されます。



10分以内に選ばない場合、システムは以前使っていたものと同じモードで再起動します。

4. [柔軟なボリューム管理 (Flex-RAID)] のラジオボタンを選択します。  
5. (オプション) [詳細] ボタンを押して X-RAID2 または Flex-RAID に関する詳細をご覧ください。

ポップアップウィンドウが表示されます。[OK] ボタンを押して終了します。

6. [RAID レベルを選択してください] というドロップダウンリストから RAID レベルまたは JBOD フォーマットを選択します。

[自動] を選択した場合、ReadyNAS システムはインストールされているディスク数に基づき、以下のように自動的に RAID レベルを選択します。

インストールされているディスク数	自動的に選択される RAID レベル
1	RAID 0
2	RAID 1
3	RAID 5
4	

7. [初期化の開始] ボタンをクリックします。  
ボリューム作成を確認するダイアログボックスが表示されます。
8. [OK] ボタンをクリックします。  
ボリュームがフォーマットされます。ハードディスクドライブのサイズにより、フォーマットにはかなりの時間がかかる場合があります。
9. (オプション) バックアップされたデータを再フォーマットされたディスクに復元します。  
詳しくは 84 ページの *ReadyNAS システムにデータを復元する* をご覧ください。

### 異なる *Flex-RAID* フォーマットに変更する

Flex-RAID は、ReadyNAS ストレージシステムにインストールされているディスク数により、様々なディスクフォーマットを提供します。詳しくは 20 ページの *Flex-RAID* をご覧ください。

システムが別の Flex-RAID フォーマットを使用するよう再構成することができます。

#### ▶ Flex-RAID ディスクフォーマットを変更する：

1. システムにデータが保存されている場合は、データをバックアップしてください。  
詳しくは 80 ページの *ReadyNAS システムに保存されたデータのバックアップ* をご覧ください。
2. 工場出荷時の状態にリセットします。



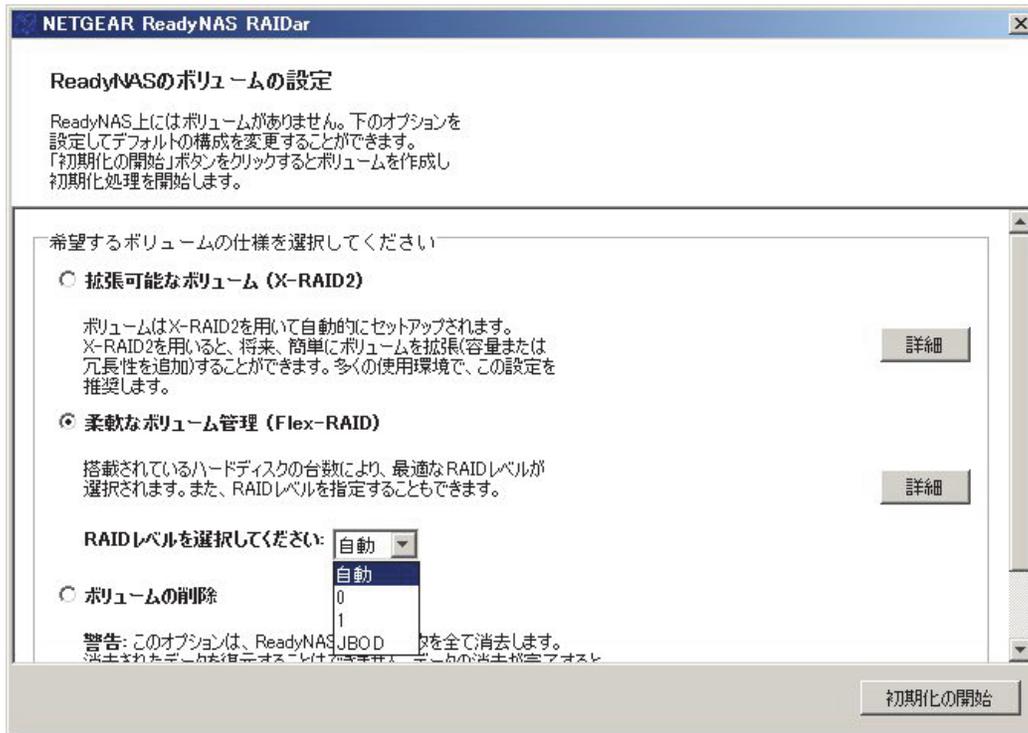
#### 警告！

**ReadyNAS システムを工場出荷時の状態にリセットすると、すべてのデータと構成が消去されます。**

工場出荷時の状態にリセットする方法は、機種により異なります。工場出荷時の状態にリセットする方法については、*ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* を参照してください。

工場出荷時の状態にリセットする場合、RAID 構成を選ぶ時間が 10 分間あります。RAIDar はこの 10 分の間に [設定をクリック] という指示を送ります。

3. RAIDar を起動し、ReadyNAS をハイライトし、[設定] ボタンをクリックします。  
ReadyNAS ボリュームの設定画面が表示されます。



10分以内に選ばない場合、システムは以前使っていたものと同じモードで再起動します。

4. [柔軟なボリューム管理 (Flex-RAID)] のラジオボタンを選択します。
5. (オプション) [詳細] ボタンを押して X-RAID2 または Flex-RAID に関する詳細をご覧ください。
- ポップアップウィンドウが表示されます。[OK] ボタンを押して終了します。
6. [RAID レベルを選択してください] というドロップダウンリストから RAID レベルまたは JBOD フォーマットを選択します。

[自動] を選択した場合、ReadyNAS システムはインストールされているディスク数に基づき、以下のように自動的に RAID レベルを選択します。

インストールされているディスク数	自動的に選択される RAID レベル
1	RAID 0
2	RAID 1
3	RAID 5
4	

7. **[初期化の開始]** ボタンをクリックします。  
ボリューム作成を確認するダイアログボックスが表示されます。
8. **[OK]** ボタンをクリックします。  
ボリュームがフォーマットされます。ハードディスクドライブのサイズにより、フォーマットにはかなりの時間がかかる場合があります。
9. (オプション) バックアップされたデータを再フォーマットされたディスクに復元します。  
詳しくは 84 ページの *ReadyNAS システムにデータを復元する* をご覧ください。

この章では、ReadyNAS の共有の作成、管理、およびアクセス方法について説明しています。この章には次の内容が含まれます。

- *共有の基本概念*
- *共有の作成*
- *共有の管理*
- *共有へのアクセス*

## 共有の基本概念

ReadyNAS ストレージシステムのボリュームは、フォルダやディレクトリに似た共有に分けられます。

### データの管理

共有は、データをグループごとに分ける方法です。データは種類別に分けることができます。例：

- 写真
- 音楽
- ビデオ
- ドキュメント

また、ユーザー別に分けることもできます。例：

- トム
- リック
- メアリー

企業内であれば、部署によって分けることもできます。例：

- 経理部
- 営業部
- 人事部

こうした分類を組み合わせたり、自分だけの分類を作成することもできます。

ReadyNAS ストレージシステムには、既定の共有が2つあります。

- backup
- media

必要に応じて、これらの共有を削除したり、名前を変更したりすることができます。ご自身のデータを整理するために、他の共有を作成することもできます。

## ファイル共有プロトコル

ReadyNAS システムの共有へはネットワーク経由でアクセスすることができます。ReadyNAS システムストレージに保存されたデータへのアクセスは、データ転送を処理するファイル共有プロトコルで管理されます。ご利用の ReadyNAS ストレージシステムは次のファイル共有プロトコルに対応しています。

- **SMB (サーバーメッセージブロック)**: 主にマイクロソフトの Windows コンピューター、および一部のアップルの Mac OS X コンピューターで使われます。このプロトコルは CIFS (Common Internet File Service) とも呼ばれます。
- **AFP (Apple ファイルプロトコル)**: Mac OS 9 および Mac OS X コンピューターで使われます。ReadyNAS システムは AFP 3.3 をサポートしています。

ユーザーが共有にアクセスすると、それぞれのコンピューターにはハードディスクのように表示されます。ユーザーは、ハードディスクを使うように共有を操作することができます。

## アクセス権限

作成する 1 つ 1 つの共有に対し、各ユーザーのアクセス権限を指定することができます。下表は利用可能なアクセス権限の一覧です。

表 3. アクセス権限のオプション

アクセス権限	説明
リードオンリー	この権限を持つユーザーは、この共有に保存されたファイルにアクセスできますが、ファイルを編集したり、この共有にファイルを作成したりすることはできません。
リード/ライト	この権限を持つユーザーは、この共有に保存されたファイルの読み取り、書き込み、および新規作成ができます。
誰でもリードのみ可 (例外あり)	この共有へのアクセスは一部のリード/ライトの権限を持ったユーザー以外はリードオンリーです。
誰でもリード/ライト可 (例外あり)	この共有へのアクセスは一部のリードオンリー権限のみを持ったユーザー以外はリード/ライトです。

## ファイルおよびフォルダ名

共有には、データを整理するためのフォルダやファイルを保存することができます。ReadyNAS システムに保存されたファイルやフォルダの名前がすべて英数字の場合、255 文字以内であることを確認してください。英数字以外の文字を使用する場合、使用可能な最大文字数はさらに少なくなります。例えば、ファイルやフォルダ名に漢字や平仮名を使う場合、最大文字数は 83 文字までとなる場合があります。

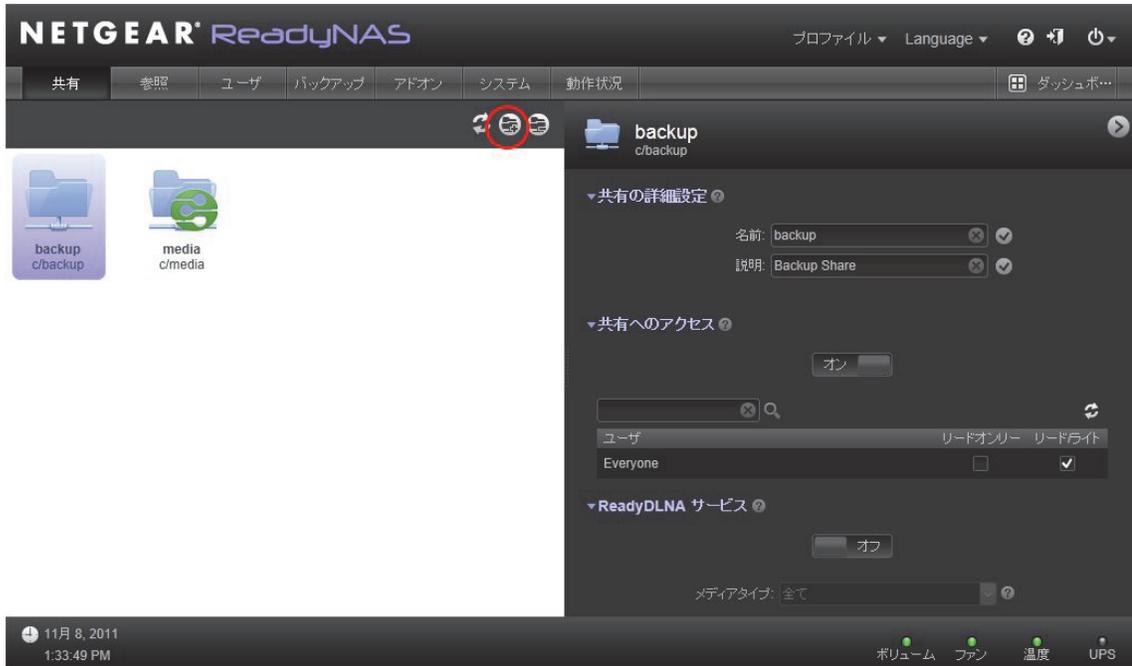
## 共有の作成

デフォルトでは、新規共有は SMB および AFP ファイル共有プロトコルが有効になっており、すべての人にリード/ライト権限が与えられます。

### ▶ 共有を作成する

1. [設定] > [共有] を選択します。

共有の画面が表示されます。



2. [新しい共有] アイコン（ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。

新しい共有のダイアログボックスが開きます。



3. 新しい共有について、次の情報を入力してください。
  - **ボリューム**：ご利用のシステムにボリュームが1つしかない場合、ドロップダウンリストは選択できません。複数のボリュームがある場合、ドロップダウンリストから1つのボリュームを選びます。
  - **名前**：新しい共有の名前を入力します。共有名は、英数字で31文字までです。漢字や平仮名をご利用の場合、使用可能な文字数は大幅に少なくなります。ほとんどのアルファベット、数字、符合などを共有名として使用することができます。
  - **(オプション) 説明**：新しい共有の説明を入力します。共有の説明は、最長で255文字までです。共有の説明にはどの言語もご使用いただけます。
4. **[適用]** ボタンをクリックします。  
共有が作成されます。

## 共有の管理

ReadyNAS ストレージシステムで、各共有のファイル共有プロトコルやアクセス権限設定を有効にしたり、または無効にしたりすることができます。

### 共有を表示

ダッシュボードを使って、ご利用の ReadyNAS システムに含まれる共有を表示します。

#### ▶ 共有を表示：

1. **[設定]** > **[参照]** を選択します。

参照画面が表示されます。



2. 各共有やフォルダの隣にある展開と折畳のアイコンをクリックし、ReadyNAS システム上の共有、フォルダ、ファイルを選びます。

## 共有のアクセス権限の微調整

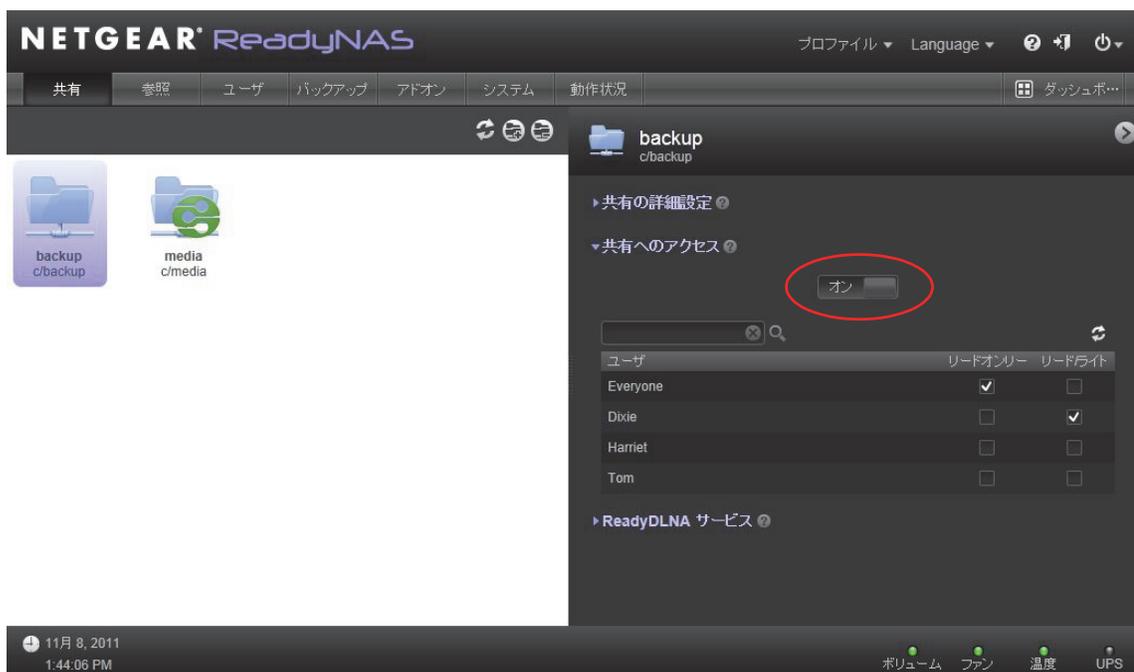
ダッシュボードを使って共有へのアクセス権限を微調整します。すべてのファイル共有プロトコルを有効または無効にし、各共有またはユーザーに対してアクセス権限を付与したり、制限したりすることができます。例えば、1人のユーザーに対して、ある共有にはリード/ライト権限を与え、別の共有にはリードオンリー権限を与える場合などに便利です。

ユーザーの作成と管理についての詳細は [第4章, ユーザーアカウント](#) をご覧ください。

### ➤ 共有のアクセス権限の微調整

1. [設定] > [共有] を選択します。

共有の画面が表示されます。



2. (オプション) 共有へのアクセスというスイッチを「オフ」が見えるようにスライドさせると、この共有のファイル共有プロトコルを無効にできます。

これらのプロトコルを無効にすると、誰もネットワーク接続デバイス(ノートPCやタブレットなど)からSMBまたはAFPファイル共有プロトコルを使ってこの共有にアクセスすることができなくなります。

3. (オプション) ユーザーのアクセス権限を調整します。

ここで調整するアクセス権限は、この共有にのみ適用されます。

「Everyone」のチェックボックスを選択した場合、別のアクセス権限のチェックボックスを選択することで、特定のユーザーを例外扱いにすることができます。例えば、手順1の図では、管理者がこの共有へのアクセスをを全員に対してリードオンリーとしていますが、Dixieというユーザーのみ、リード/ライトのチェックボックスを選択しています。これは、Dixie以外のすべてのユーザーは読み取りの権限しかないという意味です。Dixieは読み取りと書き込みの権限が与えられます。

## フォルダの作成

ダッシュボードを使い、共有するフォルダを追加します。

▶ **フォルダを作成：**

1. [設定] > [参照] を選択します。  
参照画面が表示されます。
2. 展開と折畳のアイコンをクリックし、フォルダを追加したい場所を選択します。  
フォルダの中にフォルダを追加することもできます。



3. フォルダを追加したい共有やフォルダを選択してハイライトし、[新規フォルダ] のアイコン（ステップ 2. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。

新しいフォルダのダイアログボックスが開きます。



4. フォルダ名を入力し、[適用] ボタンをクリックします。  
ファイル名とフォルダ名の制限については、31 ページの **ファイルおよびフォルダ名** をご覧ください。  
ファイルが追加されました。

## フォルダを削除

ダッシュボードを使い、フォルダを ReadyNAS システムから完全に削除します。



### 警告！

フォルダを完全に削除すると、このフォルダに含まれるデータも一緒に削除されます。

#### ▶ フォルダを削除する：

1. [設定] > [参照] を選択します。

参照画面が表示されます。

2. 展開と折畳のアイコンを使い、フォルダを削除したい場所を選択します。

フォルダの中のフォルダを削除することもできます。



3. 完全に削除したいフォルダを選んでハイライトし、[フォルダを削除] アイコン（ステップ 2. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。

削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

4. [はい] をクリックしてください。

フォルダとその内容が完全に ReadyNAS システムから削除されます。

## 共有を削除

ダッシュボードを使い、共有を ReadyNAS システムから完全に削除します。



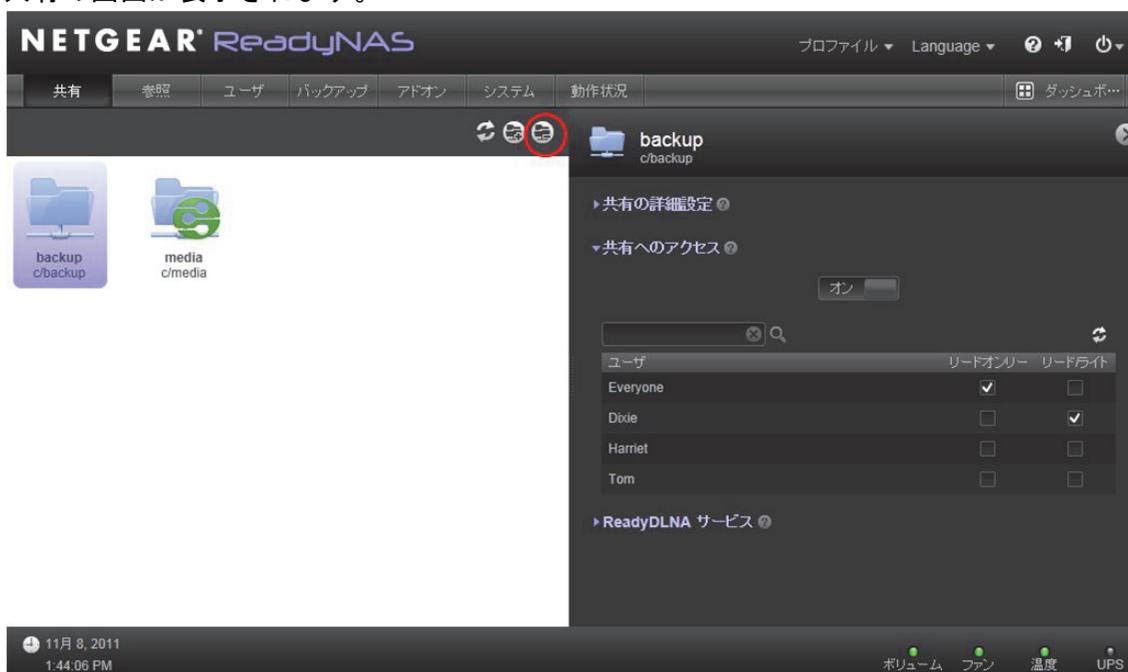
### 警告！

共有を完全に削除すると、この中に含まれるデータも一緒に削除されます。

#### ➤ 共有を削除する：

1. [設定] > [共有] を選択します。

共有の画面が表示されます。



2. 共有を選んでハイライトし、[共有を削除] アイコン（ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。

削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

3. [はい] をクリックしてください。

共有とその内容が完全に ReadyNAS システムから削除されます。

## 共有へのアクセス

ノート PC やタブレットなど、ネットワークに接続されたデバイスを使い、ReadyNAS システムの共有にリモートアクセスすることができます。この場合、ネットワークに接続されたデバイスは、SMB または AFP ファイル共有プロトコルのいずれかに対応している必要があります。

### Windows を使ったファイルへのアクセス

ネットワークに接続された Windows PC を使い、ReadyNAS システムにアクセスすることができます。

➤ ネットワークに接続された Windows で共有にアクセス：

1. リモートアクセスする PC で、ファイル共有プロトコルが有効になっているかどうかを確認します。

詳しくは 34 ページの *共有のアクセス権限の微調整* をご覧ください。

2. Windows エクスプローラのマイコンピュータのアドレスバーに、`\\<hostname>` と入力します。



`<hostname>` とは、ReadyNAS に割り当てた名前を指します。変更していない場合は、デフォルトのホスト名となります。

ReadyNAS システムにログインするようメッセージが表示されます。

3. ユーザー ID とパスワードを入力します。

管理者として、または一般ユーザーとしてログインすることができます。ユーザーとしてログインする場合は、ReadyNAS システム管理者が設定したアクセス制限の対象となります。

Windows エクスプローラに ReadyNAS 上で利用可能な共有の内容が表示されます。

### Mac OS X を使ったファイルへのアクセス

ネットワークに接続された OS X を使い、ReadyNAS にアクセスすることができます。

➤ ネットワークに接続された OS X で共有にアクセス：

1. リモートアクセスする Mac で、ファイル共有プロトコルが有効になっているかどうかを確認します。

詳しくは 34 ページの *共有のアクセス権限の微調整* をご覧ください。

2. [Finder] から [移動] > [サーバーへ接続] を選択します。

[サーバーへ接続] のダイアログボックスが表示されます。

3. 次のように ReadyNAS システムに接続します。

- AFP ファイル共有プロトコルを使用する場合は、次のコマンドをサーバーアドレスの欄に入力してください。

**afp://<host\_name>**

- SMB ファイル共有プロトコルを使用する場合は、次のコマンドをサーバーアドレスの欄に入力してください。

**smb://<host\_name>**

いずれの場合も、<host\_name> とは、ReadyNAS システムに割り当てた名前を指します。変更していない場合は、デフォルトのホスト名となります。

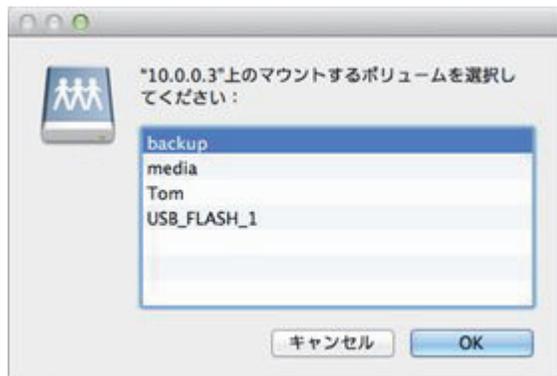
4. [接続] ボタンをクリックします。

ReadyNAS システムにログインするようメッセージが表示されます。

5. ユーザー ID とパスワードを入力します。

管理者として、または一般ユーザーとしてログインすることができます。ユーザーとしてログインする場合は、ReadyNAS システム管理者が設定したアクセス制限の対象となります。

ボリュームを選択するようメッセージが表示されます。Mac OS X では、ReadyNAS 共有は ボリュームと呼ばれます。



6. ボリューム（または共有）を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

Finder にボリュームの内容が表示されます。

## Mac OS 9 を使ったファイルへのアクセス

ネットワークに接続された OS 9 を使い、ReadyNAS にアクセスすることができます。

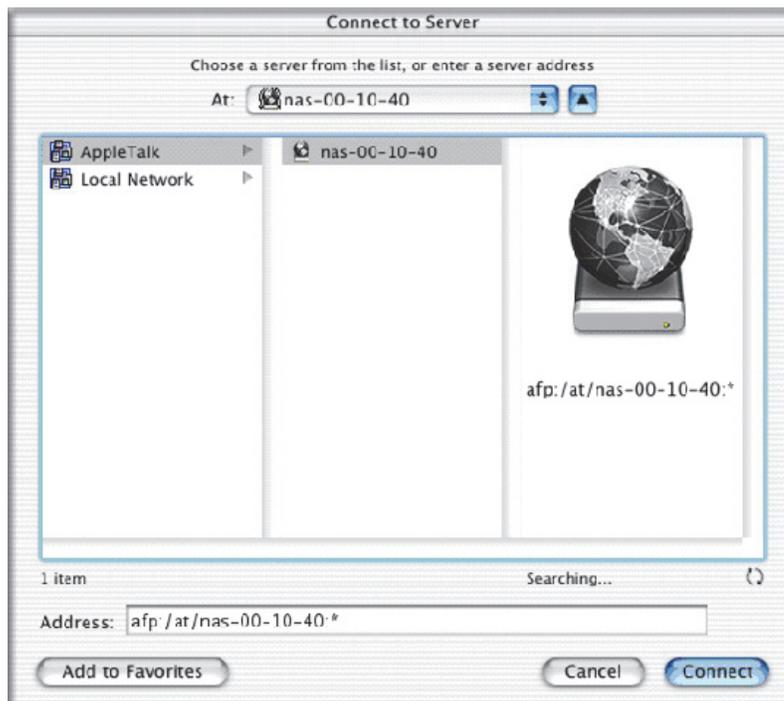
➤ ネットワークに接続された OS 9 で共有にアクセス：

1. リモートアクセスする Mac で、ファイル共有プロトコルが有効になっているかどうかを確認します。

詳しくは 34 ページの共有のアクセス権限の微調整をご覧ください。

2. [Finder] から [移動] > [サーバーへ接続] を選択します。

[サーバーへ接続] のダイアログボックスが表示されます。



3. ReadyNAS システムを選択し、[接続] ボタンをクリックします。

ReadyNAS システムにログインするようメッセージが表示されます。

4. ユーザー ID とパスワードを入力し、[接続] をクリックします。

管理者として、または一般ユーザーとしてログインすることができます。ユーザーとしてログインする場合は、ReadyNAS システム管理者が設定したアクセス制限の対象となります。

ボリュームを選択するようメッセージが表示されます。Mac OS 9 では、ReadyNAS 共有は *ボリューム* と呼ばれます。



5. ボリューム（または共有）を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

Finder にボリュームの内容が表示されます。

## Linux または Unix を使ったファイルへのアクセス

ネットワークに接続された、SMB ファイル共有プロトコル対応の Linux または Unix を使い、ReadyNAS の共有にアクセスすることができます。

### ▶ ネットワークに接続された Linux または Unix で共有にアクセス：

1. リモートアクセスする PC で、ファイル共有プロトコルが有効になっているかどうかを確認します。

詳しくは 34 ページの *共有のアクセス権限の微調整* をご覧ください。

2. Linux または Unix が SMB ファイル共有プロトコルに対応していることを確認してください。
3. ターミナルプログラムを使い、次のコマンドを入力します。

```
mount [-t cifs -o username=<user_name>,password=<password>]
//<ReadyNAS_IP_Address>/<share_name> <mount_point>
```

以下にご注意ください。

- <user\_name> と <password> は ReadyNAS のユーザー名とパスワードと一致させてください。ただし、ゲストとして接続する場合、ユーザー名を入力する必要はありません。ゲストとしてアクセスする際にパスワードの入力を求められた場合は、直接 **<Enter>** キーを押してください。
- <ReadyNAS\_IP\_address> は ReadyNAS の IP アドレスです。
- <share\_name> はアクセスしようとしている共有の名前です。
- <mount\_point> は Linux または Unix の空のフォルダ名です。

## ReadyNAS Remote を使った共有へのアクセス

ReadyNAS Remote は、SMB ファイル共有プロトコルに対応している PC や MAC から ReadyNAS システムにファイルをドラッグ & ドロップすることのできる、Web ベースのアドオンサービスです。すべてのファイルへのアクセス権限や共有のセキュリティ設定は、LAN 上にいるかのように維持されます。すべてのデータは暗号化され、安全に転送されます。

ReadyNAS Remote は、ReadyNAS にアドオンを使用し、Mac または PC でクライアントソフトを使用します。

ReadyNAS システムのアドオンのインストールや管理については、66 ページのアドオンをご覧ください。

### *ReadyNAS Remote を有効にする*

ReadyNAS Remote アドオンは、ご利用の ReadyNAS ストレージシステムにあらかじめインストールされています。ReadyNAS Remote アドオンを使って共有にアクセスする前に、ReadyNAS システムのアドオンを有効にする必要があります。

#### ➤ ReadyNAS Remote を有効にする：

1. [設定] > [アドオン] を選択します。

利用可能なアドオンがすべて表示されます。

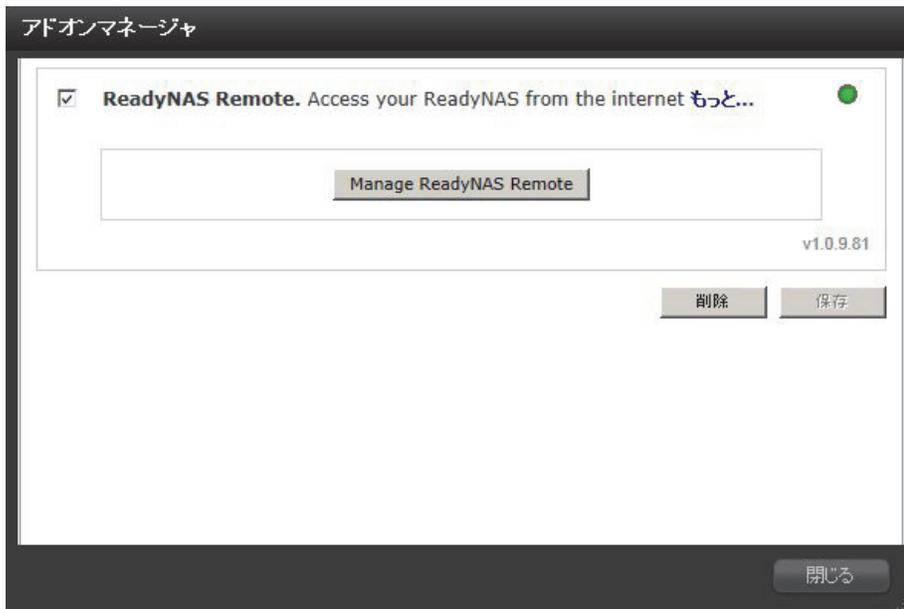
2. [インストール済み] ボタンをクリックします。

システムにインストールされているアドオンがすべて表示されます。



- ReadyNAS Remote アイコンをクリックします。

[アドオンマネージャ] のダイアログボックスが表示されます。



- ReadyNAS Remote のチェックボックスを選択し、[保存] ボタンを押します。
- [Manage ReadyNAS Remote] ボタンをクリックします。  
Remote Access ウィンドウが表示されます。
- このインターフェースで、他のユーザーに対し ReadyNAS Remote アドオンを使って ReadyNAS システムにアクセスするための許可を与えます。
- [設定を適用] ボタンをクリックします。
- ReadyNAS Remote の説明の [こちら] というリンクをクリックします。  
ReadyNAS のオンラインチュートリアルが表示されます。
- リンクをスクロールし、ReadyNAS Remote クライアントソフトウェアバージョンのリンクをご覧ください。
- ご利用の Mac または PC に適したバージョンのリンクをクリックしてください。
- 画面の指示に従い、ReadyNAS Remote クライアントソフトをコンピューターにダウンロードします。

## ReadyNAS Remote クライアントソフトのインストール

ReadyNAS Remote を使って共有にアクセスする前に、ご利用の Mac または PC に ReadyNAS Remote クライアントソフトをインストールする必要があります。

### ▶ コンピューターに ReadyNAS Remote クライアントソフトをインストール：

1. ReadyNAS Remote クライアントソフトをインストールします。

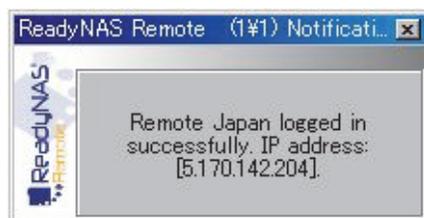
インストールはウィザードに沿って行います。

インストールが完了したら、ReadyNAS Remote アカウントを作成するよう指示されます。

2. ウィザードに従い、無料の ReadyNAS Remote アカウントを作成してください。

ユーザー ID とパスワードが生成されます。共有にアクセスするには、この ID とパスワードが必要になります。

ReadyNAS Remote Web サービスでの登録を終えると、ポップアップウィンドウが表示されます。



## 共有へのアクセス

コンピューターが ReadyNAS システムと同じ LAN 上にもない場合でも、ReadyNAS Remote を使い、コンピューターと ReadyNAS システムとの間でファイルをドラッグ & ドロップすることができます。

➤ **ReadyNAS Remote を使って共有にアクセスする：**

1. リモートアクセスするデバイスで、ファイル共有プロトコルが有効になっているかどうかを確認します。

詳しくは 34 ページの *共有のアクセス権限の微調整* をご覧ください。

2. PC または Mac で ReadyNAS Remote クライアントソフトを起動します。
3. ReadyNAS Remote アカウントにログインします。
4. ReadyNAS システムに接続します。
5. 共有はエクスプローラ (PC の場合) または Finder (Mac の場合) に表示されます。

これで、PC または Mac と ReadyNAS システムとの間で、ReadyNAS LAN 上にいるかのようにファイルをドラッグ & ドロップすることができます。

# ユーザーアカウント

---

# 4

この章では、ユーザーアカウントの作成と管理について説明しています。次のセクションが含まれます。

- [ユーザーの基本概念](#)
- [ユーザーアカウント](#)

## ユーザーの基本概念

ユーザーとは、お使いの ReadyNAS へのアクセスを許可する人を指します。お使いの ReadyNAS へのアクセスを許可する場合は、その人に対してユーザーアカウントを作成する必要があります。ReadyNAS ストレージシステムの管理者はユーザーアカウントを作成し、各ユーザーがどの共有に対してアクセス権限を持つかを決定します。

ReadyNAS をご家庭で使用する場合、家族の 1 人 1 人に対してユーザーアカウントを作成するとします。ReadyNAS に保存された財務データに対しては両親のみがアクセスできるように設定し、写真や音楽に対してはすべてのユーザーがアクセスできるように設定するとします。この場合、各ユーザーに対して適切な許可を設定する必要があります。

## ユーザーアカウント

ダッシュボードから ReadyNAS のユーザーアカウントの作成、管理、削除を実行することができます。

### ユーザーアカウントの作成

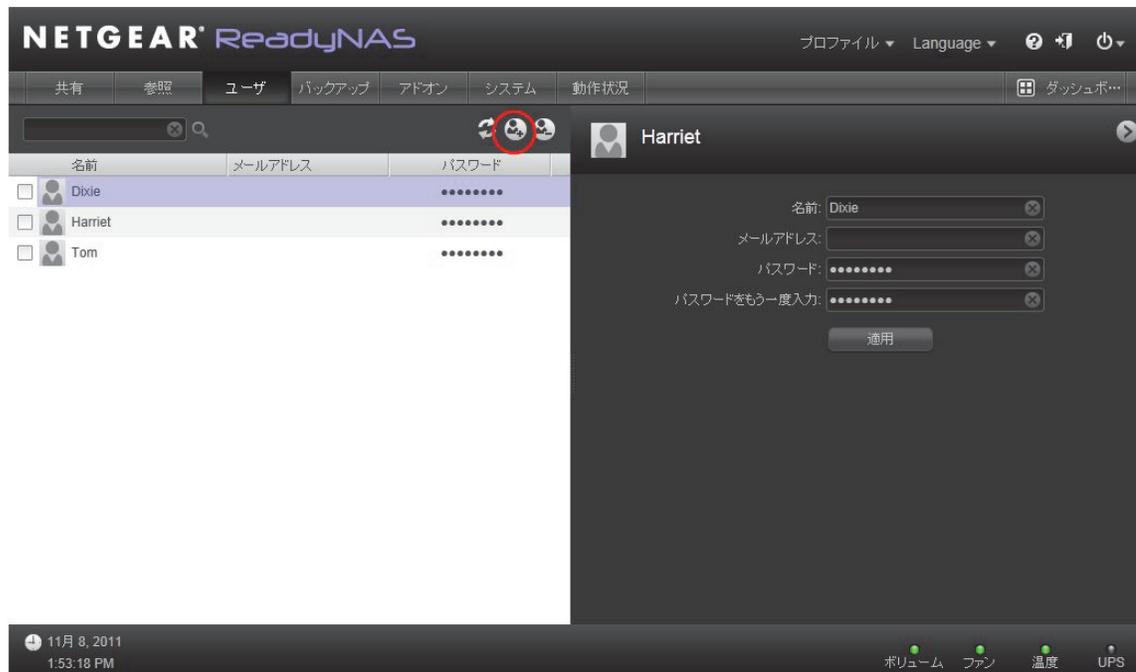
ReadyNAS ストレージシステムでは、最大で 32,000 のユーザーアカウントを作成することができます。ただし、システム内に大量のユーザーアカウントを作成するとシステムパフォーマンスが劣化する可能性があります。NETGEAR は、ユーザーアカウントを必要な分のみ作成し、できれば 100 以下に抑えておくことをお勧めします。

新しいユーザーアカウントを作成する場合、このユーザーのプライベートホームディレクトリが作成されます。このプライベートディレクトリは本人とシステム管理者にしか表示されません。

➤ ユーザーアカウントを作成する：

1. [設定] > [ユーザー] を選択します。

ユーザー画面が表示されます。



2. [新しいユーザー] アイコン(ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン) をクリックします。
3. 新しいユーザーのダイアログボックスが開きます。

4. 新しいユーザーについて、次の情報を入力してください。
  - **名前**：必須項目です。ユーザー名は、英数字では最大 31 文字となっています。漢字や平仮名をご利用の場合、使用可能な文字数は大幅に少なくなります。ほとんどのアルファベット、数字、符合などをユーザー名として使用することができます。
  - **メールアドレス**：オプションです。
  - **パスワード**：必須項目です。パスワードを入力してください。ユーザーパスワードは最大 255 文字です。
  - **パスワードをもう一度入力**：必須項目です。ユーザーパスワードをもう一度入力します。
5. [ユーザー追加] ボタンをクリックします。  
新しいユーザーが作成されます。

## ユーザーアカウントの編集

ダッシュボードでユーザー名、メールアドレス、パスワードを編集することができます。

### ▶ ユーザーアカウントを編集する：

1. [設定] > [ユーザー] を選択します。

ユーザー画面が表示されます。



ユーザーが少数の場合、すべてが画面に表示されます。

ユーザーが多い場合、検索機能を使って編集したいユーザーアカウントを検索してください。

2. 左側の画面で、編集したいユーザーを選んでハイライトします。  
右側の画面には、選択されたユーザーの設定が表示されます。
3. 必要に応じて設定を変更してください。
4. [適用] ボタンをクリックします。  
変更が保存されます。

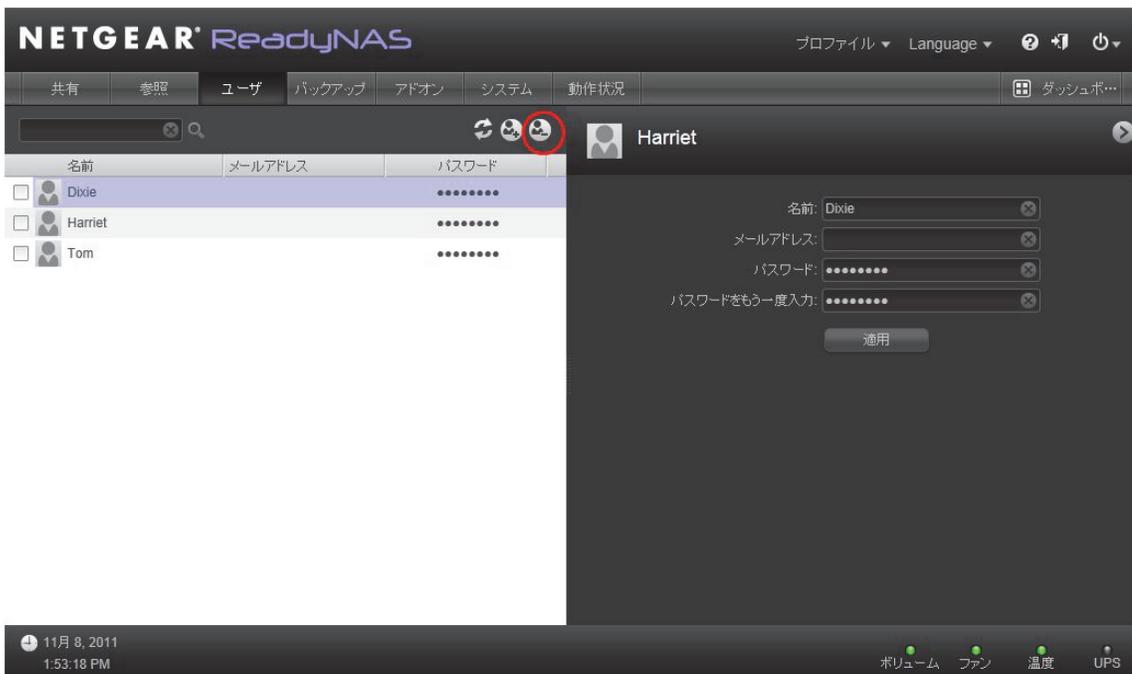
## ユーザーアカウントの削除

ダッシュボードでユーザーアカウントを削除することができます。ReadyNAS システム上に削除されたユーザーが所有しているファイルがある場合、このファイルにアクセスできなくなる場合があります。ユーザーを削除すると、ReadyNAS システムはこのユーザーのプライベートホームディレクトリおよびその内容を削除します。

### ▶ ユーザーを削除する：

1. [設定] > [ユーザー] を選択します。

ユーザー画面が表示されます。



ユーザーが少数の場合、すべてが画面に表示されます。

ユーザーが多い場合、検索機能を使って編集したいユーザーアカウントを検索してください。

2. 左側の画面で、削除したいユーザーを選んでハイライトします。  
右側の画面には、選択されたユーザーの設定が表示されます。
3. ここで **[削除]** アイコン（ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。  
削除を確認するダイアログボックスが表示されます。
4. **[はい]** をクリックしてください。  
ユーザーが削除されます。

# システム設定

---

# 5

この章では、ReadyNAS ストレージシステムの設定、ネットワーク設定、アドオン、USB ストレージデバイスの管理方法について説明しています。次のセクションが含まれます。

- システム構成
- ネットワーク設定
- アドオン
- USB ストレージデバイス

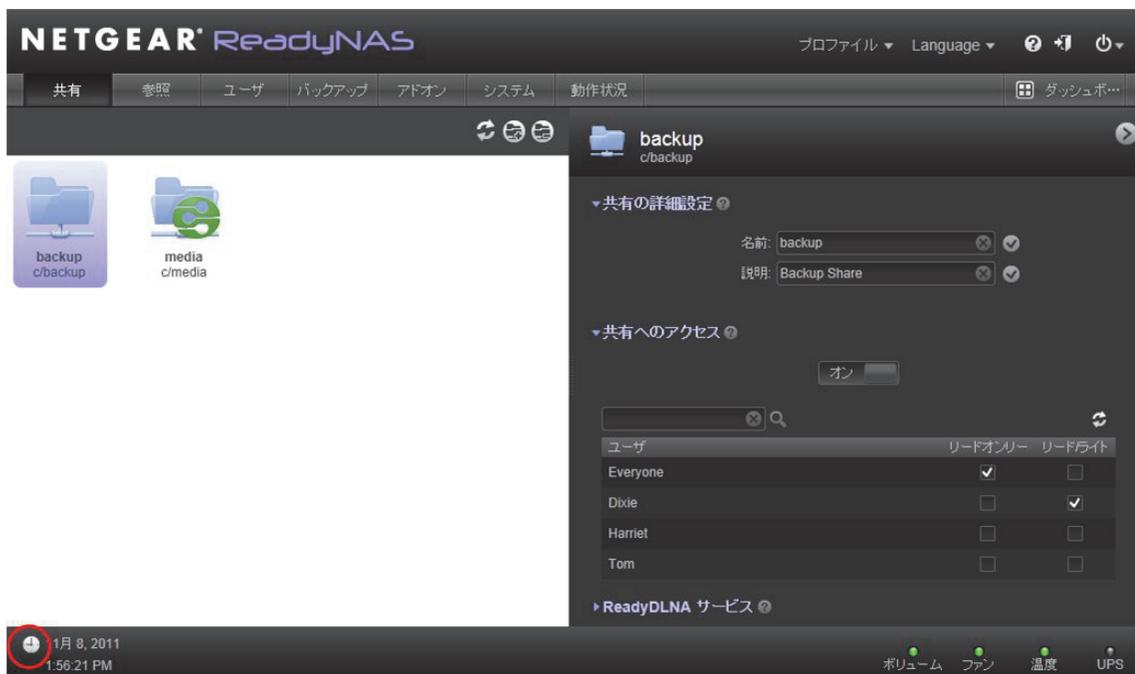
## システム構成

ReadyNAS ストレージシステムの構成は、ダッシュボードを使って管理します。

### 時計

ReadyNAS システムでファイルに正しい日時を記録するには、ReadyNAS の時刻と日付の設定が正しくなければなりません。

- ▶ システム時刻と日付の設定：
  1. [設定] ボタンをクリックします。  
共有の画面が表示されます。



2. 画面の左下にある時計アイコンをクリックします。

3. 日付と時刻のダイアログボックスが表示されます。



4. タイムゾーンのドロップダウンリストから、現在の場所を選んでください。  
ファイルが正しい日時を記録するよう、ReadyNAS ストレージシステムが現在置かれている場所のタイムゾーンをお選びください。
5. 次のいずれかの方法で、正しい時刻を選択してください。
  - [インターネット上のサーバーに時計を同期します] チェックボックスを選択します。このチェックボックスにチェックを入れると、時刻のドロップダウンメニューが無効になり、システムの日付と時刻は NETGEAR NTP サーバーに同期されます。
  - [インターネット上のサーバーに時計を同期します] チェックボックスを選択していない場合、時刻のドロップダウンリストとカレンダーを使い、手動で日付と時刻を設定してください。
6. [適用] ボタンをクリックします。  
設定が保存されます。

## 警告

警告送信用のメールアドレスが設定されている場合、ファンの故障、ハードディスクの故障、クォータ違反、ディスク容量の低下などのシステムイベントが起こると警告メールが生成されます。ReadyNAS はシステムイベントを必須とオプションの 2 種類に分けます。必須イベントの場合、必ず警告メールが生成されます。オプションイベントの場合は、警告メールを生成するかどうか選ぶことができます。

## 警告の送信先メールアドレス

システムに異常が発生し、注意が必要な場合に警告メッセージを受信したい場合は、警告送信用のメールアドレスを指定する必要があります。不在にしている時に ReadyNAS システムを監視できるよう、スマートフォンのメールアドレスを使うこともできます。

### 警告送信先メールアドレスを管理する：

1. [設定] > [システム] > [警告] を選択します。

警告画面が表示されます。

2. [警告の送信先メールアドレス] の欄にメールアドレスを入力します。

また、既存の警告送信先メールアドレスを変更したり、入力欄からアドレスを消去することもできます。

3. [メールサービスプロバイダー] のドロップダウンリストからプロバイダーを選択してください。

「Internal」のオプションを選択すると、ReadyNAS システムがメール転送エージェント (MTA) として機能します。この設定はほとんどの企業環境でご利用いただけます。

4. (オプション) ご利用のメールサービスプロバイダーがリストにない場合、[高度な設定] に進み、ご利用のプロバイダーの送信メールサーバー (SMTP) を設定してください。

5. (オプション) メールサービスプロバイダーの詳細を入力します。

これらの設定情報はインターネットからも入手できますが、直接メールサービスプロバイダーにお問い合わせいただくこともできます。

6. [ユーザー] の欄でメールアドレスを入力し、[パスワード] の欄でメールのパスワードを入力します。

ReadyNAS はこれらの認証情報を使ってメールサービスプロバイダーの送信メールサーバーと通信し、警告メールを送信します。

7. (オプション) [テストメッセージを送信] ボタンをクリックし、情報が正しく設定されているかどうか確認できます。

テストメッセージが受信できない場合は、設定を変更します。たとえば、メールサービスプロバイダの部分で「Internal」を選択してもテストメッセージが届かない場合、「Custom」に変更し、高度な設定を行なってください。

8. [適用] ボタンをクリックします。

## 警告イベントの設定

ご利用の ReadyNAS ストレージシステムは、必須およびオプションのイベントが発生すると警告メールを発信するようあらかじめ設定されています。それぞれのオプションイベントで警告メールを生成するかを設定することができます。NETGEAR は、すべての警報項目を有効にしておくことを推奨します。ただし、問題が発生する可能性を理解したうえで、一時的に無効にすることもできます。

### ▶ 警告イベントの設定を管理する：

1. [設定] > [システム] > [警告] を選択します。

警告画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Warning' configuration page. On the left, there are fields for '警告の送信先メールアドレス' (Warning recipient email address) with a dropdown menu set to 'Internal', and '高度な設定' (Advanced settings) including 'SMTP サーバ:', 'SMTP ポート:', '送信元アドレス:', and 'TLS を使用する:' (checkbox). A 'テストメッセージを送信' (Send test message) button is at the bottom. On the right, the 'イベント' (Events) section has checkboxes for 'ディスク不具合' (checked), 'ディスク温度' (checked), 'ディスクに空き容量がありません' (checked), '電源' (checked), 'ファン' (checked), and 'UPS' (checked). Below that, 'その他の警告設定' (Other warning settings) has checkboxes for 'ディスクが故障したり、応答がない場合に、ReadyNAS の電源を切ります。' (unchecked) and 'ディスクの温度が安全レベルを超えた場合、ReadyNAS の電源を切ります。' (checked).

2. イベントのチェックボックスにチェックを入れるか、または外してください。  
 選択できるイベントは、すべてチェックを解除できます。チェックが解除できない状態のイベントは、必ずメールが発信されるイベントです。
3. [その他の警告設定] で、チェックボックスを選択、または解除してください。
  - ディスクが故障した場合に ReadyNAS システムを正常にシャットダウンする場合は、「ディスクが故障したり、応答がない場合に、ReadyNAS の電源を切ります。」を選択します。
  - ディスクの温度が正常の範囲を上回った場合に ReadyNAS システムを正常にシャットダウンする場合は、「ディスクの温度が安全レベルを超えた場合、ReadyNAS の電源を切ります。」を選択します。
4. [適用] ボタンをクリックします。

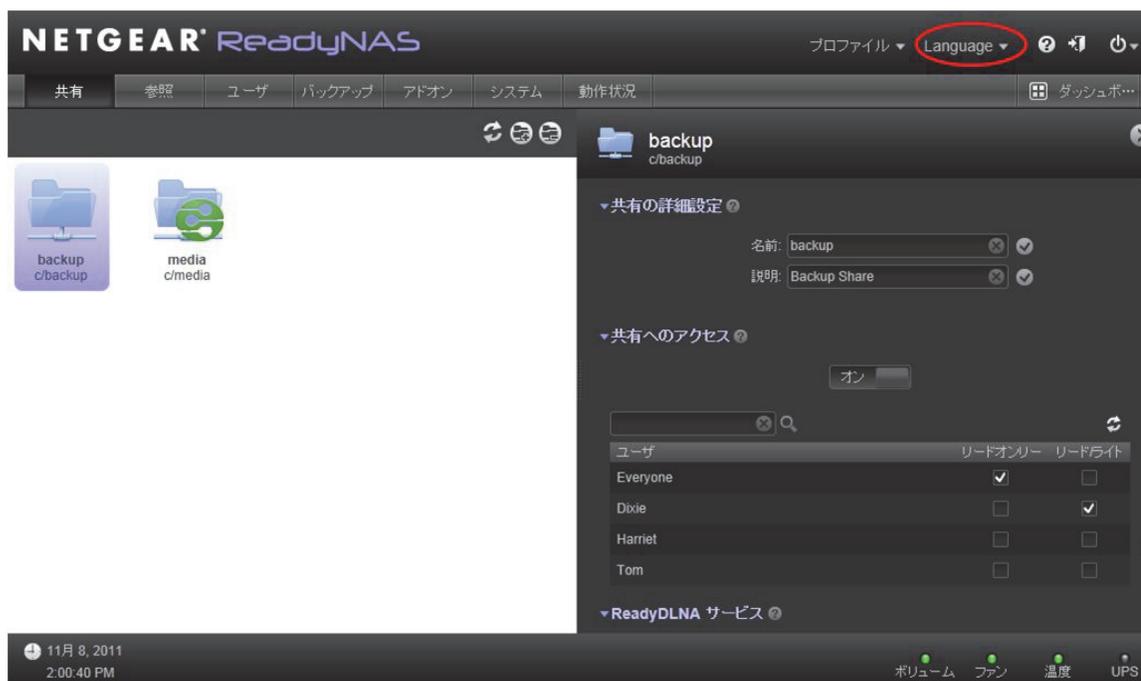
## 言語

ReadyNAS ストレージシステムがファイル名を正しく表示できるようにするには、システムが適切な文字セットを使用するよう構成します。たとえば、「日本語」を選択すると、ReadyNAS が Windows エクスプローラで日本語のファイル名に対応できるようになります。

**注意：** この設定はダッシュボードで使われている言語には影響しません。ダッシュボードの言語を変更するには、ブラウザの言語オプションを変更してください。

### ▶ 言語を設定する：

1. [設定] ボタンをクリックします。  
共有の画面が表示されます。



2. 言語のドロップダウンリストから、言語を選択します。  
NETGEAR は、ReadyNAS を使用する地域に合わせた言語を使用することを推奨します。
3. [適用] ボタンをクリックします。  
設定が保存されます。

## 管理者パスワード

管理者は、プライベートホームディレクトリを含め、ReadyNAS システム上のすべてのファイルにアクセスすることができます。このため、管理者パスワードを保護し、定期的に変更してデータを守る必要があります。

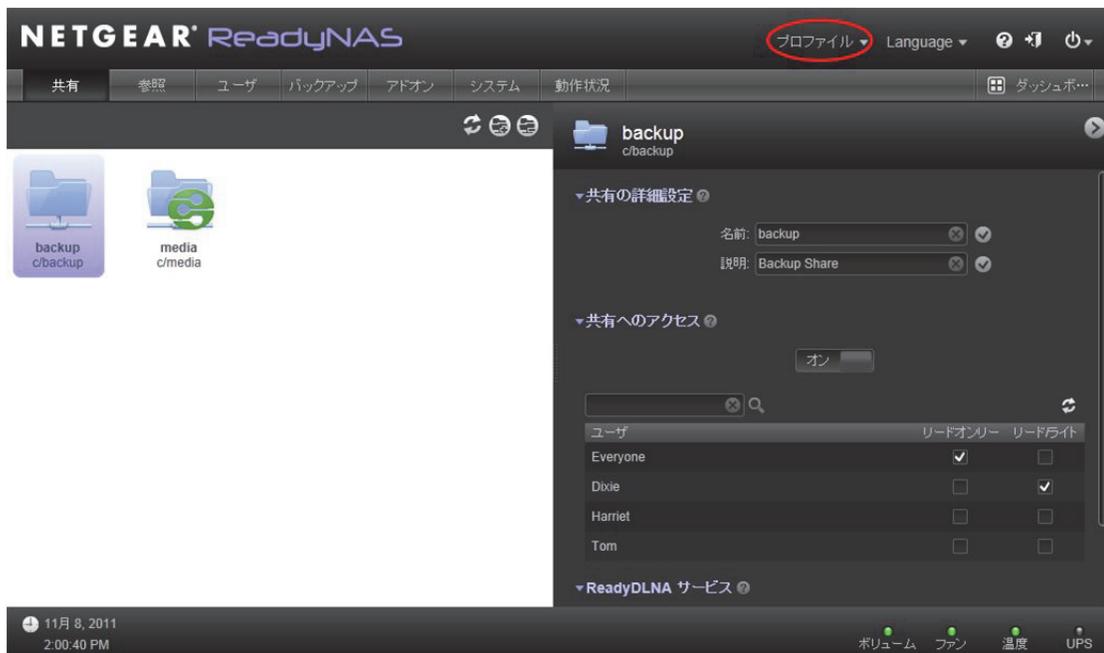
### 管理者パスワードの変更

管理者パスワードはデフォルトから変更し、安全な場所に保管するようにしてください。管理者パスワードを持つことで、ReadyNAS システム上の全データを変更したり、削除したりすることが可能になります。

#### ▶ 管理者パスワードの変更：

1. [設定] ボタンをクリックします。

共有の画面が表示されます。



2. プロファイルのドロップダウンリストから、[管理者パスワードを変更する] を選択します。

[管理者パスワードを変更する] ダイアログボックスが表示されます。

**管理者パスワードを変更する**

パスワード:

パスワードを確認:

パスワード復元の質問:

パスワード復元の回答:

復元したパスワードの送信先メール:

3. 次の欄を入力してください。
  - **パスワード**：新しいパスワードを入力してください。管理者パスワードは最大 255 文字です。
  - **パスワードを確認**：新しいパスワードをもう一度入力してください。
  - **パスワード復元の質問**：他の人が答えられない質問を選んでください。たとえば、*初めて飼った犬の名前は？*または*幼稚園の時の親友は？*などをパスワード復元の質問に設定してください。パスワード復元の質問は最大 255 文字です。
  - **パスワード復元の回答**：[パスワード復元の質問] に対する回答を入力します。パスワード復元の回答は最大 255 文字です。
  - **復元したパスワードの送信先メール**：復元したパスワードを送信する宛先のメールを入力してください。
4. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

### 管理者パスワードの復元

管理者パスワードを忘れてしまった場合は、次の 2 つの方法で復元することができます。

- **NETGEAR のパスワード復元ツールを使用**：この Web ベースツールを使用するには、まず ReadyNAS ストレージシステムで管理者パスワードの復元を有効にしておく必要があります。詳しくは 57 ページの *管理者パスワードの変更* をご覧ください。
- **OS 再インストールと再起動を実行**：このプロセスでは、システムのファームウェアを再インストールし、管理者のユーザー名とパスワードを工場出荷時の状態にリセットします。

### NETGEAR のパスワード復元ツールで管理者パスワードを復元

この方法は、57 ページの *管理者パスワードの変更* で説明するように、パスワード復元を有効に設定し、パスワード復元の質問、回答、およびメールアドレスが提供されている場合のみ使用できます。管理者パスワードの復元を有効に設定しておらず、パスワードを忘れてしまった場合は、59 ページの *OS の再インストールと再起動* で *管理者パスワードを復元* をご覧ください。

➤ **NETGEAR のパスワード復元ツールで管理者パスワードを復元する：**

1. Web ブラウザで [https://<ReadyNAS\\_IP\\_address>/password\\_recovery](https://<ReadyNAS_IP_address>/password_recovery) にアクセスします。  
<ReadyNAS\_IP\_address> は ReadyNAS システムの IP アドレスです。  
ReadyNAS パスワード復元画面が表示されます。

2. ReadyNAS ストレージシステムで設定したメールアドレスとパスワード復元の回答を入力し、[パスワードをリセットしメールする] ボタンをクリックします。  
NETGEAR は管理者パスワードをリセットし、新しいパスワードを指定のメールアドレスに送信します。

### OS の再インストールと再起動で管理者パスワードを復元

このプロセスでは、システムからデータが消去されることはありませんが、管理者パスワードを工場出荷時のパスワード (password) にリセットします。

➤ **OS の再インストールと再起動で管理者パスワードを復元する：**

ReadyNAS で OS の再インストールと再起動を実行します。

OS 再インストールによるリセットと再起動は、機種により異なります。工場出荷時の状態にリセットする方法については、*ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* を参照してください。

## システムシャットダウン

ReadyNAS ストレージシステムのシャットダウンはダッシュボードから行います。システムを再起動したとき、ブラウザウィンドウを一旦閉じ、RAIDar からダッシュボードに再接続しなければなりません。

➤ システムを正常にシャットダウンする：

1. ダッシュボード画面の右上にある電源アイコンをクリックします。



ドロップダウンリストが表示されます。

2. オプションを選択します。
  - **シャットダウン**：システムを正常にシャットダウンするには、このオプションを選択します。
  - **再起動**：システムを正常にシャットダウンし、再起動するには、このオプションを選択します。

シャットダウン、または再起動することを確認するダイアログが表示されます。

3. (オプション) [次回起動時にボリュームスキャンを実行する] というチェックボックスを選択します。

データの完全性が失われたと思われる場合のみ、このオプションを選択してください。スキャンは、ディスク容量や内容によっては 1 時間以上かかる場合があります。

4. [はい] をクリックしてください。

システムがシャットダウンし、再起動オプションを選択した場合は、再起動します。

5. ダッシュボードウィンドウを閉じます。
6. 再起動したら、RAIDar を使って ReadyNAS システムに再接続してください。

詳しくは 8 ページの RAIDar をご覧ください。

## ネットワーク設定

ReadyNAS の NAS は、ネットワーク接続ストレージの略です。LAN は、ReadyNAS ストレージシステムを管理および使用する上で不可欠な要素です。ReadyNAS ストレージシステムをインターネットに接続すると、外にいる場合でも ReadyNAS システムに保存されたデータにアクセスできるようになります。ReadyNAS をインターネットに接続することで、世界各地の人々とデータを共有することができます。

ReadyNAS システムを含む一般的なネットワーク構図は、次のようになります。

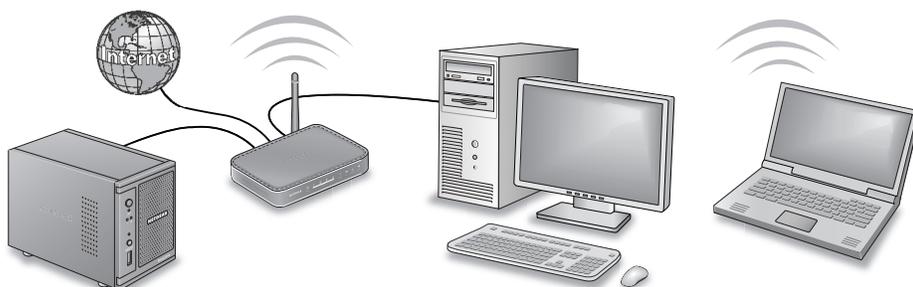


図 6 ReadyNAS ストレージシステムを含む一般的なネットワーク設定

ダッシュボードを使い、ReadyNAS システムのネットワーク設定を調整することができます。

## イーサネット

この ReadyNAS ストレージシステムはイーサネットを使って LAN 内で情報を転送します。イーサネット技術を利用するすべてのデバイスが固有の MAC (Media Access Control) アドレスを持っており、このアドレスでデバイスを認識しています。MAC アドレスは製造時に割り当てられるものです。この ReadyNAS ストレージシステムの MAC アドレスは、本体底面のシールに記載されています。また、イーサネット設定のダイアログボックスのダッシュボード、および RAIDar にも記載されています。

IP (Internet Protocol) アドレスは、ネットワーク上におけるデータ共有のもう 1 つの重要な要素です。ネットワークに接続されたすべてのデバイスには、固有の IP アドレスが割り当てられます。IP アドレスは、自動または手動で割り当てることができます。

ご利用のネットワークに DHCP (Dynamic Host Control Protocol) サーバーがある場合、自動的に IP アドレスを割り当てることができます。ほとんどのネットワークには DHCP サーバーがあります。大抵の場合、DHCP サーバーはプロバイダーが所有していますが、ルーターやその他のデバイスが DHCP サーバーとして機能することもあります。

手動で IP アドレスを割り当てる場合、LAN で有効な IP アドレスを割り当てる必要があるほか、ネットワークのサブネットマスク、ゲートウェイの IP アドレスも必要となります。

ほとんどの環境で、ReadyNAS ストレージシステムのデフォルトのネットワーク設定を使えば、LAN やインターネットを通してご利用の ReadyNAS ストレージシステムと通信することができます。ただし、設定の調整が必要になる場合もあります。

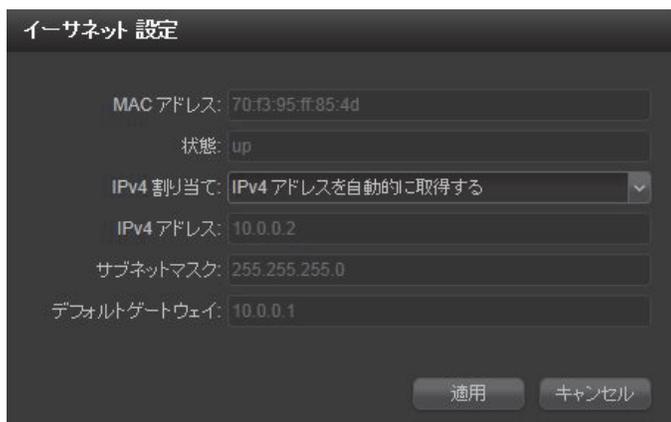
▶ イーサネットを設定する：

1. [設定] > [システム] > [ネットワーク] を選択します。

ネットワーク画面が表示されます。



2. イーサネット設定アイコン (ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン) をクリックします。  
[イーサネット設定] のダイアログボックスが開きます。



3. (オプション) IPv4 割り当ての方法を選択します。

- **IPv4 アドレスを自動的に取得する**：ほとんどのネットワークでは DHCP サーバーが有効になっているため、このオプションを選択すると、IP アドレスとサブネットマスクが自動的に割り当てられます。

[IPv4 アドレスを自動的に取得する] を選択した場合、NETGEAR は DHCP サーバーまたはルーター上のリース時間を 1 日以上に設定することをお勧めします。でなければ、数分間だけ電源を落とした場合でも、本体の IP アドレスが変更される場合があります。ほとんどの DHCP サーバーは、MAC アドレスに固定 IP アドレスをマッピングできるようになっています。このオプションがある場合、DHCP モードでも ReadyNAS 同じ IP アドレスを維持することができます。

- **次の IPv4 アドレスを使用する**：IP アドレスを正しく入力してください。間違った IP アドレスを入力すると、ReadyNAS システムに接続できません。間違って入力された IP アドレスを正常に戻すには、OS を再インストールして再起動する必要があります。詳しくは *ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* をご覧ください。

[次の IPv4 アドレスを使用する] というチェックボックスを選択すると、IPv4 アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの項目が入力可能となります。手動で IP アドレスを入力する方法を選んだ場合、次の情報を入力する必要があります。

- a. IPv4 アドレス : LAN で有効な ReadyNAS システムの IP アドレスを入力します。  
詳しくは、ルーター付属の説明書をご覧ください。
- b. サブネットマスク : ネットワークのサブネットマスクを入力します。
- c. デフォルトゲートウェイ : ご利用のゲートウェイデバイスの IP アドレスを入力します。

また、手動で IP アドレスを入力することを選んだ場合、インターネットを通して ReadyNAS システムにアクセスするには DNS サーバー情報が必要となります。詳しくは 63 ページの DNS をご覧ください。

IP アドレスが変更されると、ご利用のブラウザと ReadyNAS ストレージシステムとの接続が切断されます。手動で IP アドレスを変更した際に ReadyNAS システムに再接続するには、RAIDar ユーティリティを起動し、[再探索] ボタンをクリックして ReadyNAS を検出し、[設定] ボタンを押して再接続する必要があります。

#### 4. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

## DNS

DNS は Domain Name System の略です。IP アドレスは数字の列挙のため覚えるのが大変です。Web サイトにアクセスする際は、数字を覚えておくよりも、名前 (例 : www.readynas.com) を覚えておくほうがずっと簡単です。このため、DNS サーバーは IP アドレスを名前に変換し、また Web サイト名を IP アドレスに変換する役割を果たします。

ReadyNAS ストレージシステムでは、最大 3 つの DNS サーバーを指定することができます。

イーサネットを設定した際に、IP アドレスを自動的に割り当てることを選択した場合、ドメイン名の欄はご利用の DHCP サーバーにより自動的に入力され、編集することはできません。

イーサネットを設定した際に、IP アドレスを手動で割り当てることを選択した場合、インターネットから ReadyNAS システムにアクセスするには DNS サーバーの IP アドレスとドメイン名を手動で指定する必要があります。DNS サーバーの IP アドレスについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

イーサネットの設定について詳しくは、61 ページのイーサネットをご覧ください。

➤ DNS を手動設定する：

1. [設定] > [システム] > [ネットワーク] を選択します。

ネットワーク画面が表示されます。



2. DNS 設定のアイコン（ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。  
[DNS 設定] のダイアログボックスが開きます。



3. 少なくとも 1 つの DNS サーバーの欄に DNS サーバーの IP アドレスを入力します。
4. (オプション) ドメイン名の欄には、ドメイン名を入力します。
5. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

## ホスト名とワークグループ

ご利用の ReadyNAS ストレージシステムは、ネットワーク上ではホスト名で表示されます。RAIDar、PC、Mac、その他のインターフェースでネットワークを見ると、ReadyNAS はホスト名で表示されます。

デフォルトのホスト名は、nas- の後にプライマリ MAC アドレスの下位 3 バイトをつなげたものです。ホスト名は自分が覚えやすい名前に変更することもできます。

ワークグループとは LAN 上のコンピューターのグループを指します。デバイスをワークグループに分けると、複数のネットワーク接続デバイスを管理しやすくなります。ワークグループを指定しない場合、既定のワークグループである NETGEAR が使われます。

▶ ホスト名またはワークグループの変更：

1. [設定] > [システム] > [ネットワーク] を選択します。

ネットワーク画面が表示されます。



2. 一般設定のアイコン（ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。

[DNS 一般設定] のダイアログボックスが開きます。



3. (オプション) [ホスト名] の欄に新しいホスト名を入力します。

ホスト名は LAN 上で固有のものでなければなりません。たとえば、ルーターのホスト名が Fido の場合、ReadyNAS システムのホスト名を Fido にすることはできません。また、ホスト名には英数字のみ使用できます。

ホスト名は、最大 24 文字となっています。ホスト名に次の文字を含めることができます。

- アルファベット
- 数字
- ハイフン (-)
- カンマ (,)
- ピリオド (.)
- アンダーバー (\_)

名前の最初はアルファベットにする必要があります。

4. (オプション) [ワークグループ] の欄に新しいワークグループ名を入力します。

ワークグループ名は、最大 15 文字となっています。ほとんどのアルファベット、数字、符合などをワークグループ名として使用することができます。

5. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

## アドオン

アドオンとは、ReadyNAS ストレージシステム用のアプリケーションです。NETGEAR、NETGEAR の提携企業、または開発者などにより開発されたアドオンをインストールすることで、ReadyNAS システムに様々な機能やサービスを追加することができます。一部のアドオンは、ダッシュボードの使用可能なアドオンのタブに表示されます。その他のアドオンは本書ではスタンドアロンアドオンと呼ばれ、<http://www.readynas.com/ja/?cat=36> から入手するか、または<http://www.readynas.com/ja/?cat=57> で開発者から直接入手することができます。

## アドオンの管理

ダッシュボードで現在 ReadyNAS ストレージシステムにインストールされているアドオンを表示し、管理することができます。

以下のアドオンは、ReadyNAS システムにあらかじめインストールされています。

- **ReadyNAS Remote:** 複雑なルーターや VPN 設定が不要で、ReadyNAS の共有に安全なリモートアクセスを提供します。エクスプローラを使って Windows から共有にアクセスしたり、または Finder を使って Mac から共有にアクセスしたりすると、ファイルを LAN 環境で簡単にドラッグ&ドロップすることができます。詳しくは 42 ページの *ReadyNAS Remote を使った共有へのアクセス* をご覧ください。
- **ReadyNAS Photos II:** ReadyNAS ストレージシステムから直接写真を共有することができます。ReadyNAS Photos を使うと、写真をソーシャルメディアや写真共有 Web サイトにアップロードせずに写真を共有できます。ReadyNAS Photos II では、自分の写真共有サイトを作成できます。

インストールが完了し、有効で、エラーなく実行されているアドオンは、ダッシュボードに緑の LED アイコンで表示されます。

### ➤ インストールされたアドオンを管理する：

1. [設定] > [アドオン] を選択します。

画面に使用可能なアドオンがすべて表示されます。

2. [インストール済み] ボタンをクリックします。

画面には、システムにインストールされているアドオンがすべて表示されます。



3. (オプション) インストールされたアドオンを管理するにはアドオンのアイコンをクリックしてください。

[アドオンマネージャ] のダイアログボックスに、このアドオンに関する詳細が表示されます。



4. (オプション) リンクやボタンの指示に従い、アドオンを管理します。

[アドオンマネージャ] ダイアログボックスのボタンやリンクは、使用するアドオンにより異なります。

## ダッシュボードでアドオンを検索し、インストール

ダッシュボードでアドオンを検出し、インストールすることができます。

- 使用可能なアドオンを参照し、インストールする：

1. [設定] > [アドオン] を選択します。

画面に使用可能なアドオンがすべて表示されます。



2. インストールしたいアドオンの **[入手]** ボタンをクリックします。
3. 画面の指示に従い、アドオンをインストールします。  
一部のアドオンは、インストールを完了するために ReadyNAS システムの再起動が必要なものもあります。  
アドオンのインストールが完了すると、ダイアログボックスが表示されます。
4. **[OK]** ボタンをクリックします。

## スタンドアロンアドオンのインストール

スタンドアロンアドオンは、ダッシュボードの使用可能なアドオンには表示されない ReadyNAS 用のアプリケーションです。スタンドアロンアドオンは、ReadyNAS と同じ LAN 上にあるコンピューターに直接ダウンロードし、ダッシュボードを使ってインストールします。

### ▶ スタンドアロンアドオンをインストールする：

1. **[設定]** > **[アドオン]** を選択します。

画面に使用可能なアドオンがすべて表示されます。



2. 右上の **[新しいアドオン]** ボタンをクリックします。  
**[新しいアドオン]** のダイアログボックスが表示されます。



3. **[参照]** ボタンをクリックし、アップロードしたいアドオンを選択します。
4. **[アップロード]** ボタンをクリックします。
5. 画面の指示に従い、アドオンをインストールします。  
一部のアドオンは、インストールを完了するために ReadyNAS システムの再起動が必要なものもあります。

## USB ストレージデバイス

ReadyNAS には USB ディスクやフラッシュドライブを接続することができます。ReadyNAS システムに接続する USB ディスクやフラッシュドライブは、FAT32 または NTFS ファイルシステムである必要があります。

### ➤ USB ストレージデバイスを接続する：

1. USB ストレージデバイスを ReadyNAS ストレージシステムの USB ポートに接続します。

ReadyNAS の USB ポートに関する詳細は、*ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* を参照してください。

2. (オプション) [設定] > [システム] > [ハードウェア] を選択します。

ハードウェアの画面に USB ストレージデバイスに関する情報が表示されます。



1. USB ストレージデバイスの情報
2. 切断のアイコン
3. (オプション) USB ストレージデバイスを安全に取り外すには、[切断] アイコンをクリックしてください。

# 監視と維持管理

---

# 6

この章では ReadyNAS システムの監視と維持管理について説明しています。次のセクションが含まれます。

- [監視](#)
- [維持](#)

## 監視

ReadyNAS ストレージシステムのステータスを監視するには、ダッシュボードを使います。

### システム動作状況

ダッシュボードのホーム画面にはシステムの状態が表示されます。[動作状況] の画面では、より詳しい情報を確認することができます。

#### ▶ システム状況を確認する：

[設定] > [動作状況] > [情報] を選択します。

[情報] 画面が表示されます。

#### ▼ 情報

Disk 1 ● Seagate ST3500320NS 465 GB (36 °C, 書き込みキャッシュ有効). 状態: OK  
 Fan SYS ● 1365 RPM  
 温度 ● 36 °C  
 UPS ● ありません。

### システムログ

システムログでは、タイムスタンプを始め、様々なシステム管理タスクの状況を確認することができます。これらログは、問題が起きた場合のトラブルシューティングに使われます。NETGEAR のテクニカルサポートにお問い合わせになると、担当者からシステムログの提示を求められることがあります。

システムログに加え、ReadyNAS ストレージシステムはバックアップログも記録しています。詳しくは 98 ページのバックアップログを表示するをご覧ください。

#### ▶ システムログを管理する：

1. [設定] > [動作状況] > [ログ] を選択します。

[ログ] 画面が表示されます。

▼ ログ

ログをダウンロード  
 ログを消去する

Wed Nov 9 19:31:27 JST 2011	●	ディスクが ReadyNAS から取り外されました。RAIDアレイが非冗長・モードになります。できるだけ早くディスクを交換してください。
Wed Nov 9 19:31:27 JST 2011	●	ディスクの取り外しを検出しました。[ディスク 2]
Wed Nov 9 19:30:32 JST 2011	●	Successfully install language pack.
Wed Nov 9 19:30:33 JST 2011	●	Addon Installation succeeded
Wed Nov 9 19:26:36 JST 2011	●	Alert settings saved.
Wed Nov 9 19:26:36 JST 2011	●	Alert contact(s) saved.
Wed Nov 9 19:22:38 PST 2011	●	System is up.
Wed Nov 9 19:20:47 PST 2011	●	Successfully installed ReadyNAS Photos II addon package (version: 1.0.5-T7)

2. (オプション) [ログをダウンロード] というボタンをクリックすると、すべてのログの圧縮ファイル (.zip) がブラウザのデフォルトダウンロード先にダウンロードされます。

3. (オプション) [ログを消去する] というボタンをクリックすると、画面に表示されているログが消去されます。ログファイルはそのままご利用になれます。

## 維持

ダッシュボードでシステムのファームウェアのアップデート、電源の管理、UPS デバイスの管理を行うことができます。

### ファームウェア

ファームウェアとは、ReadyNAS ストレージシステムを操作するソフトウェアです。ファームウェアは、読取専用のシステムメモリに直接書きこまれます。NETGEAR は定期的にファームウェアを更新し、ReadyNAS の機能向上に努めています。ファームウェアは読取専用メモリに保存されるため、ファームウェアのアップデートには特別な手順が必要になります。

ReadyNAS システムのファームウェアは RAIDiator と呼ばれ、ご利用のシステムには RAIDiator バージョン 5.x が搭載されています。アップデートが発行されるたびに、バージョンの番号が大きくなります。例：

- RAIDiator 5.x.1
- RAIDiator 5.x.2

NETGEAR の Web サイトから ReadyNAS システムのファームウェアをリモートアップデートすることもできますが、ローカルドライブで手動アップデートを行うこともできます。アップデートはファームウェアのみを更新し、データに変更はありません。

ただし、ファームウェアのアップデートを実行する前に、重要なデータなどはバックアップを取っておくことをお勧めします。

#### ファームウェアのリモートアップデート

ご利用の ReadyNAS システムがインターネットに接続されている場合、リモートアップデートが簡単です。

#### ➤ ファームウェアのリモートアップデート：

1. [設定] > [システム] > [アップデート] を選択します。

アップデート画面が表示されます。

##### アップデートの確認

アップデートの確認 ボタンをクリックして、適用可能なアップデートが存在するか確認してください。

アップデートの確認

##### 工場出荷時の状態に初期化する

工場出荷時の状態に初期化するをクリックして ReadyNAS を初期化してください。警告！ ReadyNAS を初期化すると、すべてのデータと ReadyNAS の設定が削除されます。実行する前に必ずバックアップしてください。

工場出荷時の状態に初期化する

##### 設定をアップデートする

ファームウェアのインストール をクリックし、ファームウェアファイルのおき場所を指定してアップロードしてください。

ファームウェアのインストール

## 2. [アップデートの確認] ボタンをクリックします。

ファームウェアのアップデートがない場合、現在のファームウェアが最新版であるというメッセージが表示されます。

ファームウェアのアップデートがある場合、システムをアップデートするよう指示されます。

## 3. ファームウェアのアップデートがある場合は、[システムアップデートの実行] ボタンをクリックします。

ポップアップウィンドウが表示され、ファームウェア更新中であることが表示されます。アップデートが完了すると、システムを再起動するようメッセージが表示されます。

## 4. システムを再起動してください。

警告通知メールが有効になっている場合、ReadyNAS システムはファームウェアの更新の完了をメールで通知します。

## ファームウェアのローカルアップデート

ReadyNAS とシステムがインターネットに接続されていない場合 ( 移動中など )、ファームウェアをローカルアップデートする必要があります。

### ▶ ファームウェアのローカルアップデート：

1. インターネットに接続されているコンピューターを使い、システム用のファームウェアを <http://www.readynas.com/ja/?cat=41> から USB ドライブへダウンロードします。
2. 更新用のファームウェアファイルが含まれる USB ドライブを ReadyNAS システムに接続します。

ReadyNAS システムの USB ポートに関する詳細は、*ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 ハードウェアマニュアル* を参照してください。

## 3. [設定] > [システム] > [アップデート] を選択します。

アップデート画面が表示されます。

### アップデートの確認

アップデートの確認 ボタンをクリックして、適用可能なアップデートが存在するか確認してください。

アップデートの確認

### 工場出荷時の状態に初期化する

工場出荷時の状態に初期化するをクリックしてReadyNASを初期化してください。警告！ReadyNASを初期化すると、すべてのデータとReadyNASの設定は消去されます。実行する前に必ずバックアップしてください。

工場出荷時の状態に初期化する

### 設定をアップデートする

ファームウェアのインストールをクリックし、ファームウェアファイルのおき場所を指定してアップロードしてください。

ファームウェアのインストール

## 4. [ファームウェアのインストール] ボタンをクリックします。

[ファームウェアのアップデート] ダイアログボックスが表示されます。

5. **[参照]** ボタンをクリックします。

ダイアログボックスで、ファームウェアのアップデートを含むファイルを探します。

6. ファームウェアのファイルを選びます。

ほとんどの OS では、ファイルを選択し、**[開く]** ボタンをクリックします。

ダイアログボックスが閉じ、**[ファームウェアの更新]** ダイアログボックスが更新され、ファイル名の欄が入力された状態で表示されます。

7. **[アップロード]** ボタンをクリックします。

ファームウェアファイルが ReadyNAS システムにアップロードされます。しばらくすると、**[ファームウェアのアップデート]** ダイアログボックスが更新され、新しいファームウェアの詳細が表示されます。

8. **[インストール]** ボタンをクリックします。

ファームウェアのインストールを完了するため、ReadyNAS システムを再起動するよう指示されます。

9. ReadyNAS システムを再起動してください。

警告通知メールが有効になっている場合、ReadyNAS システムはファームウェアの更新が完了した旨をメールで通知します。

## パワータイマー

スケジュールに合わせて ReadyNAS システムの電源が自動的に入ったり、切れたりするよう設定することができます。このデバイスの電源を切るよう設定してある場合、データ転送が中断され、予定されたバックアップジョブが実行されない場合があります。

➤ **パワータイマーを有効にする：**

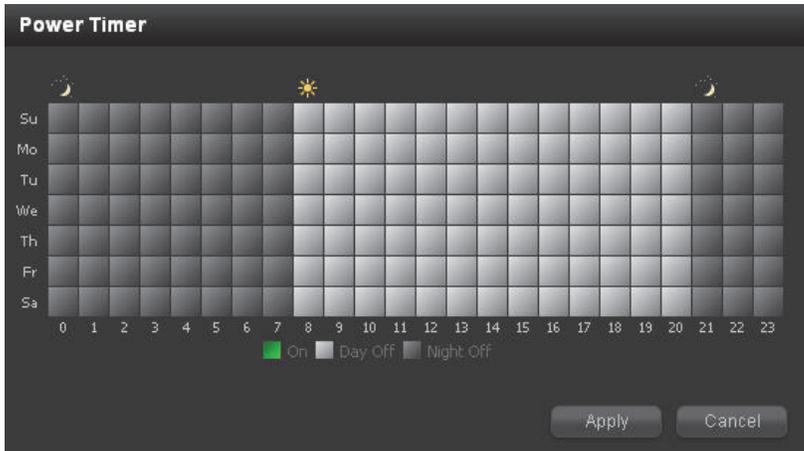
1. **[設定]** > **[システム]** > **[電源]** を選択します。

**[電源]** の画面が表示されます。



2. [パワータイマーを有効にする] というチェックボックスを選択し、構成アイコン（ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。

[パワータイマー] のダイアログボックスが開きます。



3. ボックスをクリックし、「オン」、「日中オフ」、「夜間オフ」を切り替えます。
4. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。[電源] 画面が更新され、パワータイマースケジュールの詳細が表示されます。

## UPS

ReadyNAS ストレージシステムを UPS (無停電電源装置) に接続すると、電源が故障した際にもデータを保護することができます。

メール通知を設定してある場合、UPS ステータスを変更すると ReadyNAS システムはメール通知を送信します。たとえば、電源の不具合で UPS がバッテリーモードになったり、バッテリー残量が少ない時などは、メール通知が送られます。バッテリー残量が少なくなった場合、ReadyNAS システムは自動的に終了し、安全にシャットダウンします。

### ➤ ReadyNAS システムを UPS に接続する：

1. ReadyNAS の電源ケーブルを UPS に接続します。
2. UPS USB ケーブルを ReadyNAS システムの USB ポートに接続します。

ダッシュボードでは互換性のある UPS 装置が自動的に認識され、UPS に関する情報が設定画面下方のステータスバーに表示されます。

対応 UPS 装置の一覧については、ハードウェア互換性リスト ([http://www.readynas.com/ja/?page\\_id=92](http://www.readynas.com/ja/?page_id=92)) をご覧ください。



3. (オプション) UPS LED アイコンの上にカーソルを置くと、詳細が表示されます。

# バックアップと復元

---

# 7

重要なデータは、単に保存するだけでなく、バックアップも必要となります。自然災害（火災や洪水）、盗難、不当なデータ削除、ハードドライブの故障など、データが失われる可能性は多数存在します。定期的にデータのバックアップを取っておけば、何か起きた時にもデータを復元させることができます。

企業の中には、データ保持の規定に基づきデータのバックアップが必要になる場合や、データベースのバッチ更新など、IT 環境に大きな変更を加える前に情報のアーカイブが必要になる場合があります。ホームユーザー、企業ユーザーを問わず、自然災害やその他の原因でデータが失われないよう、バックアップを取っておくことは重要です。

この章には次の内容が含まれます。

- *バックアップの基本的概念*
- *ReadyNAS システムに保存されたデータのバックアップ*
- *ReadyNAS システムにデータを復元する*
- *ネットワーク接続デバイスに保存されたデータのバックアップ*
- *データをネットワーク接続デバイスに復元する*
- *バックアップジョブの管理*
- *Time Machine*

## バックアップの基本的概念

バックアップとは、主要データが削除されたり、破損したりした場合に使用するデータのコピーです。主要データを別のデバイスに保存することをバックアップと言います。

バックアップしたデータを、主要データが保存されていた場所に戻すことを復元と呼びます。

フルバックアップとは、主要システムに保存されたすべてのデータをコピーすることを指します。主要システムを初めてバックアップする時は、必ずフルバックアップになります。フルバックアップにかかる時間は、保存されたデータの量により異なります。

差分バックアップとは、前回のバックアップ以降、変更された部分のみをバックアップする方法です。差分バックアップにかかる時間は、フルバックアップよりも大幅に短くなります。

---

**注意：** ディスクの RAID 構成はデータバックアップの代わりにはなりません。RAID 構成は、ディスクが故障した場合にのみ、データを損失から保護してくれるものです。RAID 構成が提供する保護に関しては、18 ページの RAID をご覧ください。

---

バックアップ元は、バックアップされた主要データが保存されている場所を指します。バックアップ先とは、バックアップされたデータがこれから保存される場所を指します。データの復元が必要な場合、バックアップ先のデータを使って復元ジョブを行います。

ReadyNAS システムは、ネットワーク上の様々なデバイスからバックアップと復元のプロセスを管理することができます。たとえば、ReadyNAS ストレージシステムに保存されたデータを、USB ドライブなどの他のデバイスにバックアップすることができます。

下図は、ReadyNAS システムに保存されたデータを別のデバイスにバックアップし、さらにこのデータを復元プロセスで ReadyNAS システムに復元するプロセスを示したものです。

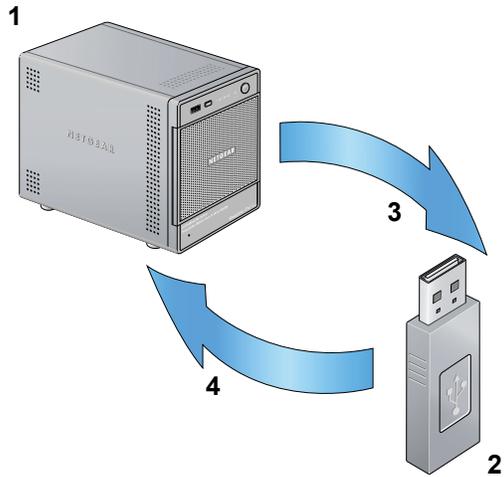


図 7 デバイスを使って ReadyNAS システムのデータをバックアップし、復元する

1. ReadyNAS ストレージシステムがバックアップ元となり、また復元先ともなります。
2. USB ドライブはバックアップ先となり、そして復元元ともなります。
3. バックアッププロセス
4. 復元プロセス

この図のバックアッププロセスは、80 ページの ReadyNAS システムに保存されたデータのバックアップで説明しています。

この図の復元プロセスは、84 ページの ReadyNAS システムにデータを復元するで説明しています。

また、ReadyNAS ストレージシステムを使い、他のデバイス ( ノート PC など ) のバックアップデータを保存することもできます。

下図はノート PC などのデバイスに保存されたデータの ReadyNAS システムへのバックアップと、このデータを復元プロセスでデバイスに戻すプロセスを示しています。

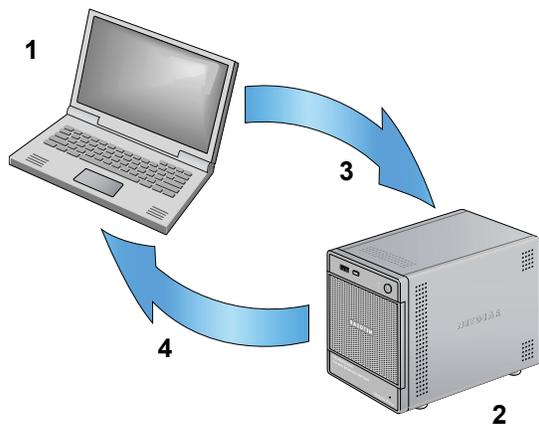


図 8 ReadyNAS システムを使い、ノート PC に保存されたデータをバックアップし、復元する

1. ノート PC がバックアップ元および復元先となります。
2. ReadyNAS ストレージシステムはバックアップ先となり、そして復元元ともなります。
3. バックアッププロセス
4. 復元プロセス

この図のバックアッププロセスは、88 ページのネットワーク接続デバイスに保存されたデータのバックアップで説明しています。

この図の復元プロセスは、92 ページのデータをネットワーク接続デバイスに復元するで説明しています。

## ReadyNAS システムに保存されたデータのバックアップ

ダッシュボードを使い、ReadyNAS に保存されたデータを別のネットワーク接続デバイスにバックアップするためのジョブを作成します。

下図は、バックアッププロセスを示しています。

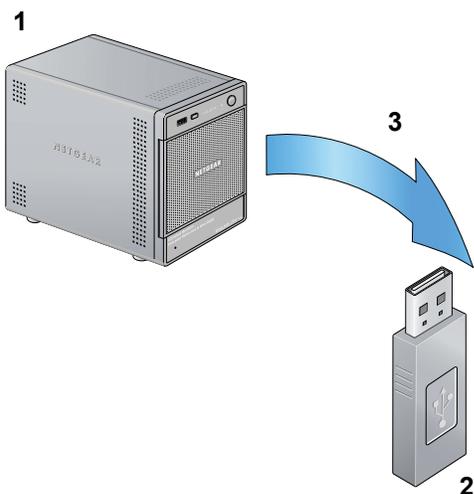


図 9 ReadyNAS システムから USB デバイスにデータをバックアップ

1. ReadyNAS システムがバックアップ元となります。
2. USB ドライブがバックアップ先となります。
3. バックアッププロセス

デフォルトでは、すべてのバックアップジョブが毎日自動的に実行されるようになっています。これらの設定は、各バックアップジョブを作成した後に変更することができます。詳しくは 96 ページのバックアップジョブの編集をご覧ください。

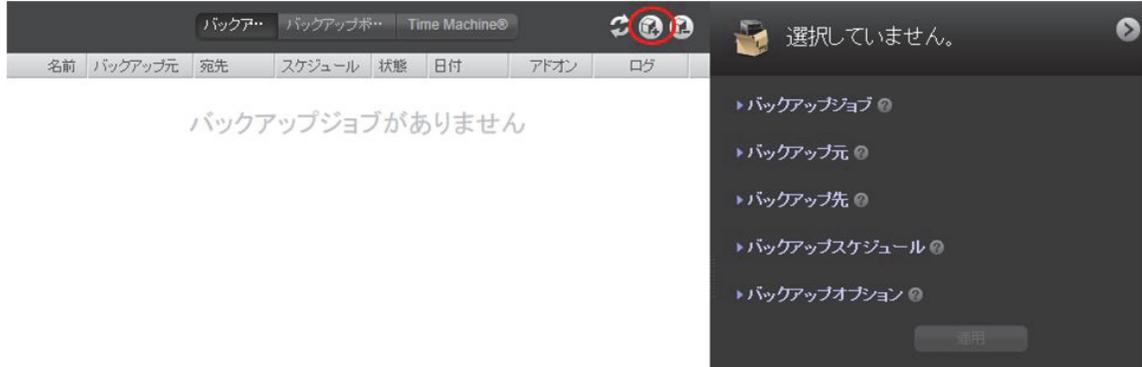
バックアップジョブをスケジュールで実行する前に、リモートバックアップ元またはバックアップ先へのアクセスが認められているか、また選択したバックアップの頻度でバックアップジョブが行われるかを確認するために、手動でバックアップを行うことをお勧めします。各バックアップジョブを作成したあとに変更することができます。詳しくは 98 ページのバックアップジョブを手動で開始するをご覧ください。

Time Machine を使ったバックアップと復元には、別の手順が必要となります。詳しくは 100 ページの Time Machine をご覧ください。

➤ ReadyNAS システムに保存されたデータのバックアップ:

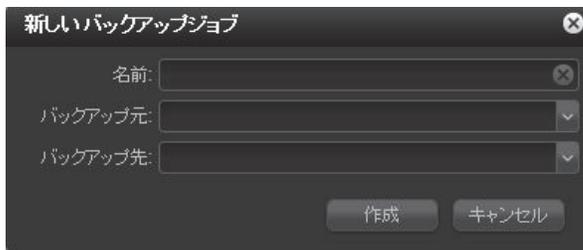
1. [設定] > [バックアップ] を選択します。

バックアップ画面が表示されます。



2. [新しいバックアップジョブ] のアイコン (ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン) をクリックします。

[新しいバックアップジョブ] のダイアログボックスが表示されます。



3. 名前の欄に新しいバックアップジョブの名前を入力します。

名前は最大 255 文字です。

4. [バックアップ元] のドロップダウンリストで、ReadyNAS 中のバックアップ元を選択します。

ご利用の ReadyNAS システムの構成状態により、表示される項目は異なります。

5. バックアップ先ドロップダウンリストから、ReadyNAS 内のデータをバックアップする場所を指定します (例: 他のストレージ機器やコンピューター)。

ReadyNAS に USB 接続したストレージ機器へデータをバックアップする場合、バックアップ先に「USB 機器」を指定します。

ジョブは、左側のバックアップジョブ一覧に追加されます。

6. ReadyNAS 以外のストレージ機器やコンピューターをバックアップ先に選択した場合、[バックアップ先] の欄を入力してください。

▼バックアップ先 ?

タイプ: remote

名前: remote: Windows/NAS (タイムスタンプ)

ホスト: [ ]

パス: [ ]

ログイン: [ ]

パスワード: [ ]

テスト接続

必要に応じて、リモートホスト名、フォルダパス、およびパスにアクセスするために必要なログイン認証を入力してください。

パスが必要なバックアップ先を選んだ場合、スラッシュ (/) でディレクトリを区切ります。例：

/<share name>/<folder name>

バックスラッシュ (\) は使用しないでください。

ReadyNAS に USB 接続したストレージ機器をバックアップ先に指定する場合で、バックアップ対象のデータを最上位階層のディレクトリに保存する場合は、パスを空欄にすることができます。

7. (オプション) [テスト接続] ボタンをクリックし、ReadyNAS システムがリモートのバックアップ先にアクセスできるかどうかをテストします。

左の欄で、このジョブのステータス LED アイコンが灰色から緑色または赤色に変わることによって、テスト結果を示します。赤は接続エラーを意味します。緑は接続が成功したことを意味します。

8. (オプション) バックアップスケジュールの部分で、新しいジョブのスケジュールを調整します。

[有効] のチェックボックスからチェックを外すと、このジョブは自動的に実行されません。このため、このバックアップジョブは手動で開始する必要があります。詳しくは 98 ページのバックアップジョブを手動で開始するをご覧ください。

[有効] のチェックボックスにチェックを入れると、ドロップダウンリストとチェックボックスでこのバックアップジョブを自動実行するスケジュールを設定することができます。

9. (オプション) [バックアップオプション] でオプション設定を調整します。
- [フルバックアップのスケジュール] のドロップダウンリストから、フルバックアップを行う頻度を選択します。
  - [完了したらメール送信] のドロップダウンリストから、バックアップが完了した時に送信するログの種類を選択します。  
 バックアップ中に発生したエラーのみ、またはファイル一覧から構成される全ログ (ファイルサイズが大きくなります)、あるいは実行結果 (完了またはエラー) を送るようを選択することができます。  
 ログ送信時のメールの本文は約 10,000 行までに限定されます。完全なログを見る方法については 98 ページのバックアップログを表示するをご覧ください。
  - (オプション) [フルバックアップを実行する前に、バックアップ先のデータを削除します] というチェックボックスを選択します。  
 このチェックボックスを選択すると、バックアップを行う前にバックアップ先の内容が削除されます。NETGEAR はこの方法を推奨していません。



#### 警告!

このオプションを使用する場合は、バックアップ元とバックアップ先を正しく設定してあることをよく確認してください。バックアップ元とバックアップ先を逆に指定してしまうと、バックアップ元のデータが完全に消えてしまいます。バックアップ先のストレージ容量が不足している場合を除き、この方法は利用しないでください。

このオプションは、テスト用のデータを使って実験し、どのように機能するかをしっかりと理解した上でご利用ください。

- (オプション) [バックアップが完了したら、バックアップ先のファイル所有権を共有に指定された所有権に変更します] というチェックボックスを選択します。  
 ReadyNAS システムは、可能な限り元のファイルの所有者を保持します。ただし、バックアップされたファイルを共有の所有者と一致させるために、バックアップファイルの所有者を自動的に変更することができます。これで共有のバックアップへアクセスするユーザーは誰でも、バックアップされたファイルへアクセスすることができます。

#### 10. [適用] ボタンをクリックします。

設定は保存され、このジョブが左側に表示されます。

ステップ 8 で [有効] のチェックボックスからチェックを外すと、ジョブを手動で起動する必要があります。

ステップ 8 で [有効] のチェックボックスを選択すると、このバックアップジョブは予定されたスケジュールに基づき、自動的に実行されます。

## ReadyNAS システムにデータを復元する

ダッシュボードを使い、以前に別のネットワーク接続デバイスへバックアップしたデータを ReadyNAS ストレージシステムに復元するジョブを作成します。

データの復元を行う前に、まずバックアップする必要があります。ReadyNAS システムに保存したデータのバックアップ方法については、80 ページの *ReadyNAS システムに保存されたデータのバックアップ* を参照してください。

下図は、このセクションで説明する復元プロセスを説明しています。

1

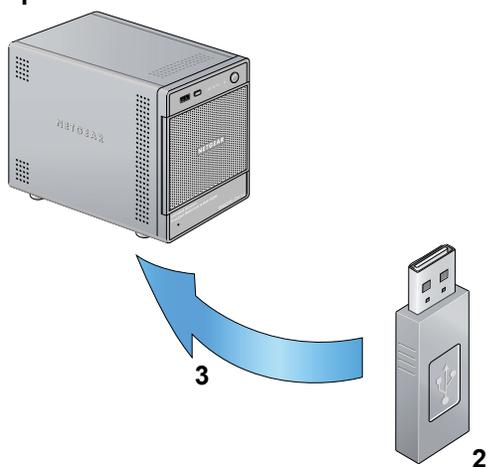


図 10 USB ドライブから ReadyNAS システムへデータを復元

1. ReadyNAS システムが復元先となります。
2. USB ドライブが復元元となります。
3. 復元プロセス



### 警告！

これは復元プロセスですが、ReadyNAS システムはこれをバックアップジョブとして扱います。つまり、バックアップと書かれたダッシュボード画面を使い、バックアップ元とバックアップ先をデータバックアップ時とは逆にします。

デフォルトでは、すべてのバックアップジョブが毎日自動的に実行されるようになっています。これらの設定は、各バックアップジョブを作成した後に変更することができます。詳しくは 96 ページの *バックアップジョブの編集* をご覧ください。

Time Machine を使ったバックアップと復元には、別の手順が必要となります。詳しくは 100 ページの *Time Machine* をご覧ください。

➤ Ready NAS システムにデータを復元する：

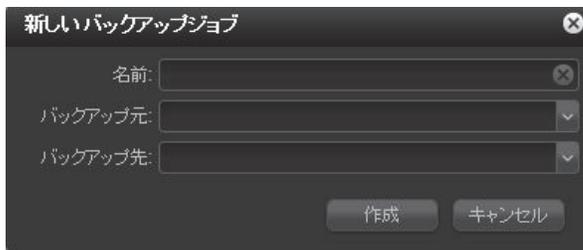
1. [設定] > [バックアップ] を選択します。

バックアップ画面が表示されます。



2. [新しいバックアップジョブ] のアイコン（ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。

[新しいバックアップジョブ] のダイアログボックスが表示されます。



3. 名前の欄に新しい復元ジョブの名前を入力します。  
名前は最大 255 文字です。
4. [バックアップ元] のドロップダウンリストから、復元元を選択します。  
ReadyNAS システムまたはリモートデバイスに接続された USB デバイスを選択します。
5. [バックアップ先] のドロップダウンリストで、ReadyNAS システムの復元先を選択します。  
ご利用の ReadyNAS システムの設定状態により、オプションが異なります。
6. [作成] ボタンをクリックします。  
ジョブは、左側のバックアップジョブ一覧に追加されます。

7. リモートの復元元を選択した場合、[バックアップ元] の欄を入力してください。



必要に応じて、リモートホスト名、フォルダパス、およびパスにアクセスするために必要なログイン認証を入力してください。

パスが必要なバックアップ先を選んだ場合、スラッシュ (/) でディレクトリを区切ります。例：

`/<share name>/<folder name>`

バックスラッシュ (\) は使用しないでください。

ReadyNAS システムに接続された USB デバイスを選択した場合、パスの部分は入力せずに、USB デバイスのトップディレクトリのデータを復元することができます。または、バックアップデータを特定のフォルダに保存している場合はフォルダのパスを入力してください。

8. ( オプション ) [テスト接続] ボタンをクリックし、ReadyNAS システムがリモートにアクセスできるかどうかをテストします。

左の欄で、このジョブのステータス LED アイコンが灰色から緑色または赤色に変わること、テスト結果を示します。赤は接続エラーを意味します。緑は接続が成功したことを意味します。

9. [バックアップスケジュール] 部分で、[有効] のチェックボックスからチェックを外します。

このチェックボックスのチェックを外すと、復元は手動で行われ、復元ジョブが自動的に始まるのを防ぎます。



#### 警告！

主要デバイスに保存されたデータの完全性を確保するためには、復元ジョブの自動実行をスケジュールしないでください。

10. (オプション) [バックアップオプション] でオプション設定を調整します。

- a. [フルバックアップのスケジュール] のドロップダウンリストから、[毎回] を選択します。
- b. [完了したらメール送信] のドロップダウンリストから、復元ジョブが完了した時に送信するログの種類を選択します。

復元中に発生したエラーのみ、またはファイル一覧から構成される全ログ (ファイルサイズが大きくなります)、あるいは実行結果 (完了またはエラー) を送るように選択することができます。

ログ送信時のメールの本文は約 10,000 行までに限定されます。完全なログを見る方法については 98 ページのバックアップログを表示するもご覧ください。

- c. [フルバックアップを実行する前に、バックアップ先のデータを削除します] というチェックボックスにチェックが入っていないことを確認します。

このチェックボックスを選択すると、復元を行う前に復元先のパスにある内容が削除されます。NETGEAR はこの復元ジョブの方法を推奨していません。



#### 警告!

このオプションを使用する場合は、復元元と復元先が正しく設定してあることをよく確認してください。万が一、復元先と元を逆に指定してしまうと、元のデータが完全に消えてしまいます。復元先のストレージ容量が不足している場合を除き、この方法は利用しないでください。

このオプションは、テスト用の設定・データを使って実験し、どのように機能するかをしっかりと理解した上でご利用ください。

- d. (オプション) [バックアップが完了したら、バックアップ先のファイル所有権を共有に指定された所有権に変更します] というチェックボックスを選択します。

ReadyNAS システムは、可能な限り元のファイルの所有者を保持します。ただし、復元されたファイルを共有の所有者と一致させるために、復元したファイルの所有者を自動的に変更することができます。これで共有のバックアップへアクセスするユーザーは誰でも、復元されたファイルへアクセスすることができます。

11. [適用] ボタンをクリックします。

設定は保存され、この復元ジョブが左側に表示されます。

[有効] のチェックボックスが解除されたため、バックアップジョブを手動で起動する必要があります。

12. 左側でこのジョブを選択してハイライトし、[Run] ボタンをクリックします。

復元プロセスが始まります。

## ネットワーク接続デバイスに保存されたデータのバックアップ

ダッシュボードを使い、ネットワーク接続デバイスに保存されたデータを ReadyNAS デバイスにバックアップすることができます。

下図は、このセクションのバックアップ手順を示しています。

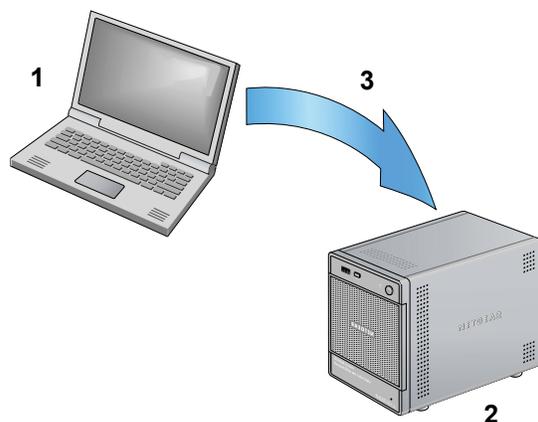


図 11 ノート PC から ReadyNAS システムへデータをバックアップ

1. ノート PC がバックアップ元となります。
2. ReadyNAS システムがバックアップ先となります。
3. バックアッププロセス

デフォルトでは、すべてのバックアップジョブが毎日自動的に実行されるようになっています。これらの設定は、各バックアップジョブを作成した後に変更することができます。詳しくは 96 ページのバックアップジョブの編集をご覧ください。

バックアップジョブをスケジュールで実行する前に、リモートバックアップ元またはバックアップ先へのアクセスが認められているか、また選択したバックアップの頻度でバックアップジョブが行われるかを確認するために、手動でバックアップを行うことをお勧めします。各バックアップジョブを作成したあとに変更することができます。詳しくは 98 ページのバックアップジョブを手動で開始するをご覧ください。

Time Machine を使ったバックアップと復元には、別の手順が必要となります。詳しくは 100 ページの Time Machine をご覧ください。

▶ 他のネットワーク接続デバイスに保存されたデータのバックアップ

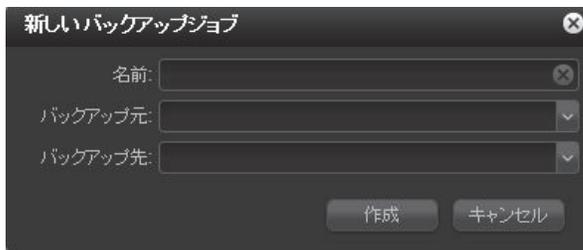
1. [設定] > [バックアップ] を選択します。

バックアップ画面が表示されます。



2. [新しいバックアップジョブ] のアイコン（ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。

[新しいバックアップジョブ] のダイアログボックスが表示されます。



3. 名前の欄に新しいバックアップジョブの名前を入力します。

名前は最大 255 文字（半角）です。

4. [バックアップ元] のドロップダウンリストから、ReadyNAS にバックアップしたいデータが置いてある場所を指定します（例：他のストレージ機器やコンピューター）。

ReadyNAS に USB 接続したストレージ機器のデータを ReadyNAS 内のデータボリュームにバックアップする場合、バックアップ元に「USB 機器」を指定します。

5. [バックアップ先] のドロップダウンリストで、ReadyNAS 中のバックアップ先を選択します。

ご利用の ReadyNAS システムの設定状態により、表示される項目が異なります。

## 6. [作成] ボタンをクリックします。

ジョブは、左側のバックアップジョブ一覧に追加されます。

ReadyNAS 以外のストレージ機器やコンピューターをバックアップ元を選択した場合、[バックアップ元] の欄を入力してください。

必要に応じて、リモートホスト名、フォルダパス、およびパスにアクセスするために必要なログイン認証を入力してください。

パスが必要なバックアップ先を選んだ場合、スラッシュ (/) でディレクトリを区切ります。例：

```
/<share name>/<folder name>
```

バックスラッシュ (\) は使用しないでください。

ReadyNAS に USB 接続したストレージ機器をバックアップ元に指定する場合で、バックアップ対象のデータが最上位階層のディレクトリにある場合は、パスを空欄にすることができます。

## 7. (オプション) [テスト接続] ボタンをクリックし、ReadyNAS システムがリモートのバックアップ元にアクセスできるかどうかをテストします。

左の欄で、このジョブのステータス LED アイコンが灰色から緑色または赤色に変わること、テスト結果を示します。赤は接続エラーを意味します。緑は接続が成功したことを意味します。

## 8. (オプション) バックアップスケジュールの部分で、新しいジョブのスケジュールを調整します。

[有効] のチェックボックスからチェックを外すと、このジョブは自動的に実行されません。このため、このバックアップジョブは手動で開始する必要があります。詳しくは 98 ページのバックアップジョブを手動で開始するをご覧ください。

[有効] のチェックボックスにチェックを入れると、ドロップダウンリストとチェックボックスでこのバックアップジョブを自動実行するスケジュールを設定することができます。

9. (オプション) [バックアップオプション] でオプション設定を調整します。
- [フルバックアップのスケジュール] のドロップダウンリストから、フルバックアップを行う頻度を選択します。
  - [完了したらメール送信] のドロップダウンリストから、バックアップが完了した時に送信するログの種類を選択します。  
 バックアップ中に発生したエラーのみ、またはファイル一覧から構成される全ログ (ファイルサイズが大きくなります)、あるいは実行結果 (完了またはエラー) を送るようを選択することができます。  
 ログ送信時のメールの本文は約 10,000 行までに限定されます。完全なログを見る方法については 98 ページのバックアップログを表示するをご覧ください。
  - (オプション) [フルバックアップを実行する前に、バックアップ先のデータを削除します] というチェックボックスを選択します。  
 このチェックボックスを選択すると、バックアップを行う前にバックアップ先の内容が削除されます。NETGEAR はこの方法を推奨していません。



#### 警告!

このオプションを使用する場合は、バックアップ元とバックアップ先を正しく設定してあることをよく確認してください。バックアップ元とバックアップ先を逆に指定してしまうと、バックアップ元のデータが完全に消えてしまいます。バックアップ先のストレージ容量が不足している場合を除き、このオプションは使用しないでください。

このオプションは、テスト用の設定・データを使って実験し、どのように機能するかをしっかりと理解した上でご利用ください。

- (オプション) [バックアップが完了したら、バックアップ先のファイル所有権を共有に指定された所有権に変更します] というチェックボックスを選択します。  
 ReadyNAS システムは、可能な限り元のファイル所有者を保持します。しかし、バックアップされたファイルを共有の所有者と一致させるために、バックアップファイルの所有者を自動的に変更することもできます。これで共有のバックアップへアクセスするユーザーは誰でも、バックアップされたファイルへアクセスすることができます。

#### 10. [適用] ボタンをクリックします。

設定は保存され、このジョブが左側に表示されます。

ステップ8 で [有効] のチェックボックスからチェックを外すと、ジョブを手動で起動する必要があります。

ステップ8 で [有効] のチェックボックスを選択すると、このバックアップジョブは予定されたスケジュールに基づき実行されます。

## データをネットワーク接続デバイスに復元する

ダッシュボードを使い、以前に ReadyNAS デバイスへバックアップしたデータを別のネットワーク接続デバイスに復元するジョブを作成することができます。データの復元を行う前に、まずバックアップする必要があります。

下図はこのセクションで説明する復元プロセスを説明しています。

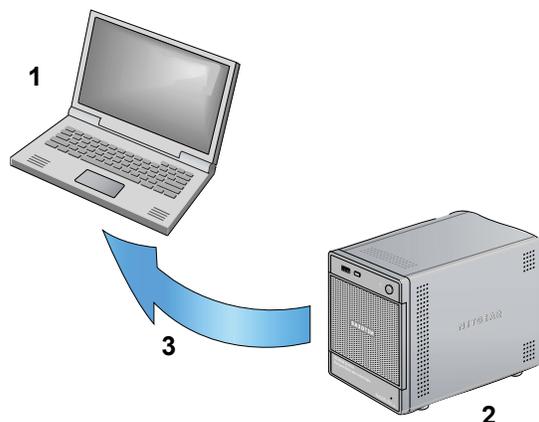


図 12 ReadyNAS システムからノート PC へデータを復元

1. ノート PC が復元先となります。
2. ReadyNAS システムが復元元となります。
3. 復元プロセス



### 警告！

これは復元プロセスですが、ReadyNAS システムはこれをバックアップジョブとして扱います。つまり、バックアップと書かれたダッシュボード画面を使い、バックアップ元とバックアップ先をデータバックアップ時とは逆にします。

デフォルトでは、すべてのバックアップジョブが毎日自動的に実行されるようになっています。これらの設定は、各バックアップジョブを作成した後に変更することができます。詳しくは 96 ページのバックアップジョブの編集をご覧ください。

Time Machine を使ったバックアップと復元には、別の手順が必要となります。詳しくは 100 ページの *Time Machine* をご覧ください。

▶ バックアップデータをネットワーク接続デバイスに復元する：

1. [設定] > [バックアップ] を選択します。

バックアップ画面が表示されます。



2. [新しいバックアップジョブ] のアイコン（ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。

[新しいバックアップジョブ] のダイアログボックスが表示されます。

3. 名前の欄に新しい復元ジョブの名前を入力します。  
名前は最大 255 文字です。
4. [バックアップ元] のドロップダウンリストで、ReadyNAS の復元元を選択します。  
ご利用の ReadyNAS システムの設定状態により、オプションが異なります。
5. [バックアップ先] ドロップダウンリストから、ReadyNAS システムの一部ではない保存先を選択します。  
ReadyNAS システムまたはリモートデバイスに接続された USB デバイスを選択します。
6. [作成] ボタンをクリックします。  
ジョブは、左側のバックアップジョブ一覧に追加されます。

7. リモートの復元元を選択した場合、[バックアップ先] の欄を入力してください。

▼バックアップ先 ⓘ

タイプ: remote

名前: remote: Windows/NAS (タイムスタンプ)

ホスト: [ ]

パス: [ ]

ログイン: [ ]

パスワード: [ ]

テスト接続

必要に応じて、リモートホスト名、フォルダパス、およびパスにアクセスするために必要なログイン認証を入力してください。

パスが必要なバックアップ先を選んだ場合、スラッシュ (/) でディレクトリを区切ります。例：

/<share name>/<folder name>

バックスラッシュ (\) は使用しないでください。

8. ( オプション ) [テスト接続] ボタンをクリックし、ReadyNAS システムがリモートにアクセスできるかどうかをテストします。

左の欄で、このジョブのステータス LED アイコンが灰色から緑色または赤色に変わることによって、テスト結果を示します。赤は接続エラーを意味します。緑は接続が成功したことを意味します。

9. [バックアップスケジュール] 部分で、[有効] のチェックボックスからチェックを外します。

このチェックボックスのチェックを外すと、復元は手動で行われ、復元ジョブが自動的に始まるのを防ぎます。



#### 警告！

主要デバイスに保存されたデータの完全性を確保するためには、復元ジョブの自動実行をスケジュールしないでください。

10. (オプション) [バックアップオプション] でオプション設定を調整します。

- a. [フルバックアップのスケジュール] のドロップダウンリストから、[毎回] を選択します。
- b. [完了したらメール送信] のドロップダウンリストから、復元ジョブが完了した時に送信するログの種類を選択します。

復元中に発生したエラーのみ、またはファイル一覧から構成される全ログ (ファイルサイズが大きくなります)、あるいは実行結果 (完了またはエラー) を送るように選択することができます。

ログ送信時のメールの本文は約 10,000 行までに限定されます。完全なログを見る方法については 98 ページのバックアップログを表示するもご覧ください。

- c. [フルバックアップを実行する前に、バックアップ先のデータを削除します] というチェックボックスにチェックが入っていないことを確認します。

このチェックボックスを選択すると復元を行う前に復元先のパスにある内容が削除されます。NETGEAR はこの復元ジョブの方法を推奨していません。



#### 警告!

このオプションを使用する場合は、復元元と復元先を正しく設定してあることをよく確認してください。万が一、復元先と元を逆に指定してしまうと、元のデータが完全に消えてしまいます。復元先のストレージ容量が不足している場合を除き、この方法は利用しないでください。

このオプションは、テスト共有を使って実験し、どのように機能するかをしっかりと理解した上でご利用ください。

- d. (オプション) [バックアップが完了したら、バックアップ先のファイル所有権を共有に指定された所有権に変更します] というチェックボックスを選択します。

ReadyNAS システムは、可能な限り元のファイルの所有者を保持します。ただし、復元されたファイルを共有の所有者と一致させるために、復元したファイルの所有者を自動的に変更することができます。これで共有のバックアップへアクセスするユーザーは誰でも、復元されたファイルへアクセスすることができます。

11. [適用] ボタンをクリックします。

設定は保存され、この復元ジョブが左側に表示されます。

[有効] のチェックボックスが解除されたため、バックアップジョブを手動で起動する必要があります。

12. 左側でこのジョブを選択してハイライトし、[Run] ボタンをクリックします。

復元プロセスが始まります。

## バックアップジョブの管理

ダッシュボードを使ってバックアップジョブやログの管理を行い、ReadyNAS 上でバックアップボタンがどう機能するかを設定することができます。

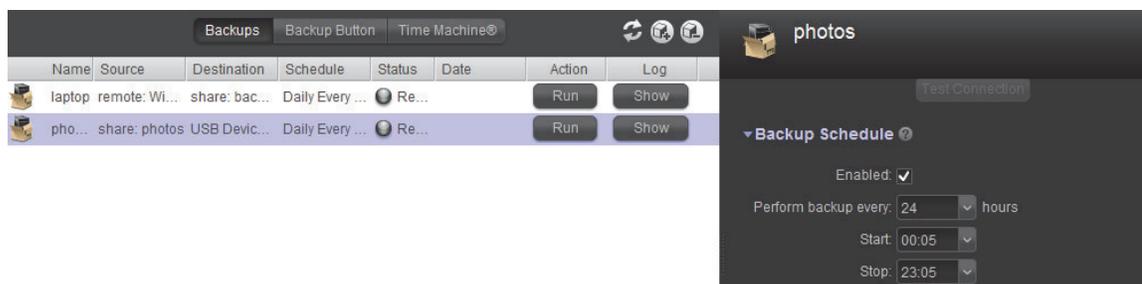
### バックアップジョブの編集

ダッシュボードを使い、以前に作成したバックアップジョブを編集することができます。

#### ▶ バックアップジョブの編集：

1. [設定] > [バックアップ] を選択します。

バックアップ画面が表示されます。



以前作成したバックアップジョブが左側に表示されます。

2. 編集するジョブを選択してください。

右側には選択したバックアップジョブの詳細が表示されます。

3. 右側のチェックボックス、ドロップダウンリストを使用し、必要に応じてバックアップジョブを編集します。
4. 右側の欄の一番下までスクロールし、[適用] ボタンをクリックします。  
変更が保存されます。

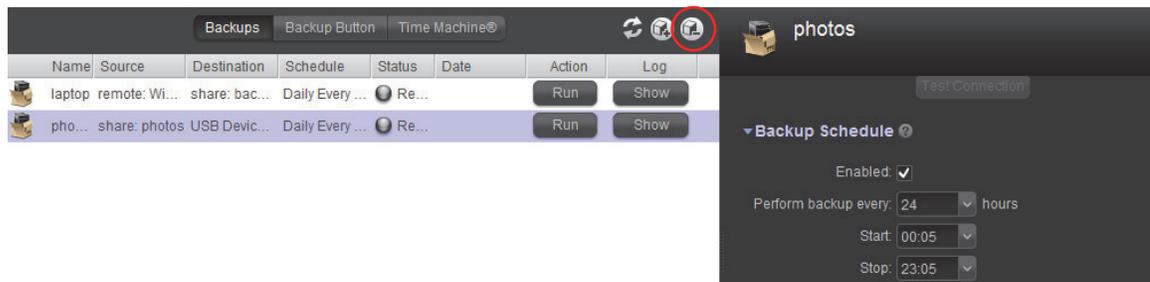
## バックアップジョブの削除

バックアップジョブを削除すると、ReadyNAS システムから完全に消去されます。

### ▶ バックアップジョブの削除：

1. [設定] > [バックアップ] を選択します。

バックアップ画面が表示されます。



以前作成したバックアップジョブが左側に表示されます。

2. 削除するジョブを選択してください。
3. [バックアップを削除] アイコン（ステップ 1. の図で丸で囲んだアイコン）をクリックします。

削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

4. [はい] をクリックしてください。

バックアップジョブが削除されました。

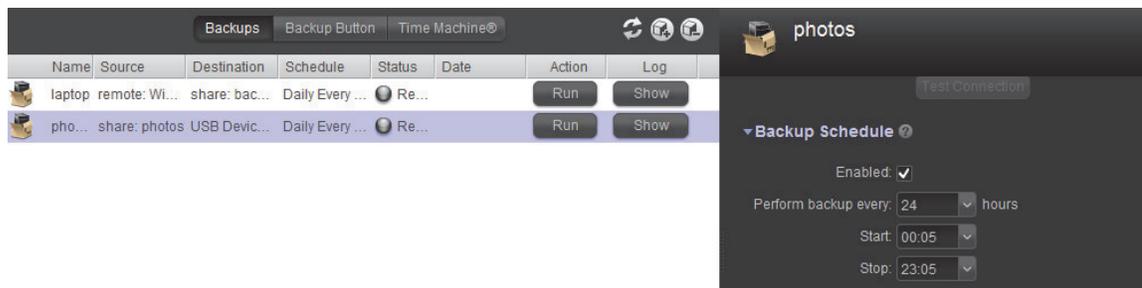
## バックアップジョブを手動で開始する

作成時に自動スケジュールに追加しなかったバックアップを手動で開始させることができます。また、自動スケジュールに追加してあるものでも、すぐに実行したい場合は手動で開始させることができます。

### ▶ バックアップジョブを手動で開始する：

1. [設定] > [バックアップ] を選択します。

バックアップ画面が表示されます。



2. 手動で開始させたいバックアップについては、ジョブの行にある [Run] ボタンをクリックしてください。

バックアップジョブが開始します。

## バックアップログを表示する

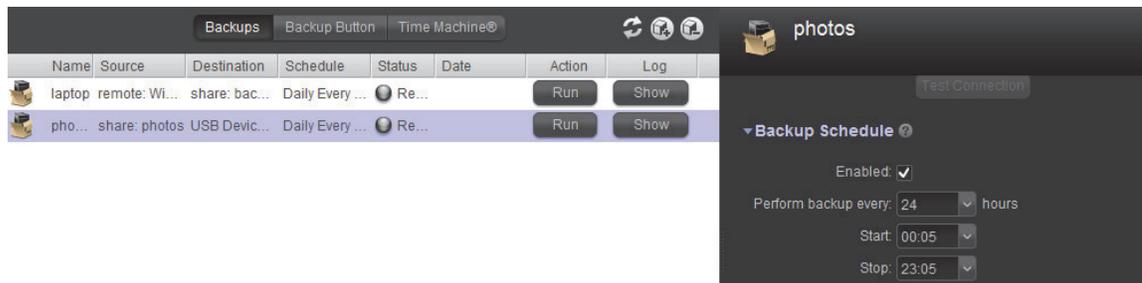
ダッシュボードを使って完了したバックアップジョブの完全なログや、進行中のバックアップジョブに関する途中経過のログを表示させることができます。

バックアップログに加え、ReadyNAS システムはシステムログも記録しています。詳しくは 71 ページのシステムログをご覧ください。

### ▶ バックアップログの表示：

1. [設定] > [バックアップ] を選択します。

バックアップ画面が表示されます。



以前作成したバックアップジョブが左側に表示されます。

2. ログを表示させたいバックアップについては、ジョブの行にある **【ログを見る】** ボタンをクリックしてください。  
ダイアログボックスにバックアップログが表示されます。
3. バックアップログを消去する場合は **【クリア】** ボタンを、ダイアログボックスを閉じるには **【閉じる】** ボタンをクリックします。

## バックアップボタンの設定

ダッシュボードでは、ReadyNAS ストレージシステムのバックアップボタンを押して過去に作成したバックアップジョブを実行するよう設定することができます。バックアップボタンを押した時に、バックアップスケジュールで設定した順にジョブが実行されるようになります。

このボタンに対して何もジョブが設定されていない場合、バックアップボタンを押すとバックアップ共有のデータを前面の USB ポートに接続したデバイスに保存します。

### ▶ バックアップボタンの設定：

1. **【設定】 > 【バックアップ】 > 【バックアップボタン】** を選択します。
2. バックアップ画面が表示されます。



作成したバックアップジョブを、ReadyNAS 前面のバックアップボタンに割り当てることができます。バックアップボタンを押すと、指定した順番でバックアップジョブを実行します。

バックアップボタンにジョブを割り当てていない場合、ボタンを押すとバックアップ共有のデータをUSB 機器にバックアップします。バックアップボタンを押す前に、USB ドライブをUSB ポートに接続してください。

順序	名前	バックアップ元	宛先	スケジュール
----	----	---------	----	--------

バックアップジョブがありません

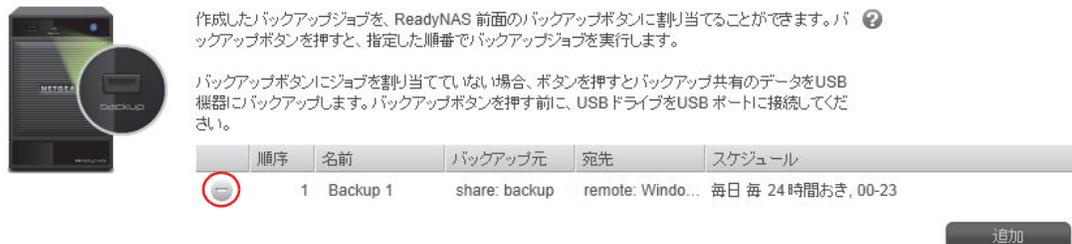
追加

3. (オプション) バックアップジョブを追加するには、以下の手順で行います。
  - a. **【追加】** ボタンをクリックし、画面の指示に従います。  
**【バックアップジョブの選択】** のダイアログボックスが表示されます。



- b. ドロップダウンリストからバックアップジョブを選択し、[追加] ボタンをクリックします。

バックアップボタンの画面が更新され、新しいジョブが表示されます。



作成したバックアップジョブを、ReadyNAS 前面のバックアップボタンに割り当てることができます。バックアップボタンを押すと、指定した順番でバックアップジョブを実行します。

バックアップボタンにジョブを割り当てていない場合、ボタンを押すとバックアップ共有のデータをUSB 機器にバックアップします。バックアップボタンを押す前に、USB ドライブをUSB ポートに接続してください。

順序	名前	バックアップ元	宛先	スケジュール
1	Backup 1	share: backup	remote: Windo...	毎日 毎 24時間おき, 00-23

追加

4. (オプション) バックアップボタンの設定からバックアップジョブを削除するには、次の手順に従います。
- a. 削除アイコン (ステップ 3. b の図で丸で囲んだアイコン) をクリックします。
- 削除を確認するダイアログボックスが表示されます。
- b. [はい] をクリックしてください。
- バックアップジョブがバックアップ一覧から削除されます。

## Time Machine

ReadyNAS ストレージシステムを使い、Mac OS X Time Machine に保存されたデータをバックアップすることができます。

- Time Machine のデータを ReadyNAS システムにバックアップする：

1. [設定] > [バックアップ] > [Time Machine] を選択します。

Time Machine の画面が表示されます。



オン

ユーザー名: ReadyNAS

容量: 225.28 GB 460.25 GB

パスワード:

適用

2. スライダーを「オン」へ移動します。
3. [容量] の欄で、ReadyNAS ストレージシステムのうち、Time Machine のバックアップに割り当てる最大容量を指定します。

Time Machine のバックアップがここで指定した容量を超えると、ReadyNAS システムは Time Machine の古いバックアップを削除し、容量内に抑えようとします。

4. [パスワード] の欄でパスワードを作成します。

5. [適用] ボタンをクリックします。  
設定が保存されます。
6. Time Machine を実行し、[バックアップディスクの選択]というボタンをクリックします。  
ポップアップウィンドウが表示され、利用可能なディスク (ReadyNAS システムを含む) が表示されます。



7. ここで ReadyNAS システムを選択し、[バックアップディスクとして使用] ボタンをクリックします。

ログイン認証を求めるダイアログボックスが表示されます。



8. [名前] の欄で **ReadyNAS** と入力します。
9. [パスワード] の欄で、[ステップ4](#) で作成したパスワードを入力し、[接続] ボタンをクリックします。

Time Machine がバックアップを開始します。このプロセスには数分かかる場合があります。

# 適合性に関する情報

---

# 8

## ReadyNAS RAIDiator 5.x

### 各種規定との適合に関する情報

このセクションでは、電波スペクトルの使用および無線装置の操作方法に関する国内の規定に基づき本機を操作するための条件を記載しています。適合法に準拠できない場合、ユーザーは行政当局により定められた規定に対し、非合法的な操作や行動を招く結果となります。

本製品のファームウェアは、特定の地域や国家で許可されたチャンネルでのみ操作可能となっています。このため、本ユーザーガイドに記載されている一部の説明は、ご利用の製品バージョンに適合されない場合もあります。

### 米国における FCC 要件

#### ユーザーへの FCC 情報

本機にはユーザー自らが修理できる部品は含まれておらず、承認されたアンテナのみご利用になれます。本機に何らかの変更や修正を加えた場合、関連法に基づく認証や承認は無効となります。

本機は FCC 規定第 15 項に準拠しています。本機の操作は次の対象となります。(1) 本機は有害な干渉を引き起こしてはなりません。(2) 本機は、予期せぬ動作を引き起こす可能性のあるものを含め、すべての干渉を受信しなければなりません。

#### 人体暴露に関する FCC ガイドライン

本機は、規制のない環境下に対し設定された FCC 放射線暴露制限を満たしています。本機は放熱体や人体から 20cm 以上離れた場所に設置してください。

本機は他のアンテナや転送装置と一緒に設置したり、操作したりしないでください。

## FCC 適合宣言

我々 (350 East Plumeria Drive, San Jose, CA 95134) は、弊社の義務として ReadyNAS RAIDiator 5.x が FCC 規定第 15 項に準拠することを証明します。

本機の操作は次の対象となります。

- 本機は有害な干渉を引き起こしてはなりません。
- 本機は、予期せぬ動作を引き起こす可能性のあるものを含め、すべての干渉を受信しなければなりません。

## FCC ラジオ周波数干渉警告および指示

本機は FCC 規定第 15 章の Class B デジタル装置としてテスト済みです。これらの規制は、住宅地区における使用に際し、有害な干渉を防ぐために設定されています。本機は電磁波を発生し、外部に放射することがあります。指示どおりインストールまたは使用されない場合、無線通信に対し有害な干渉を招く可能性があります。ただし、特定のインストールを行うことで干渉防止を保証するものではありません。

本装置がラジオやテレビの受信に有害な干渉を招いており、本機の電源をオン / オフにすることでその干渉が確実な場合は、以下のいずれかの方法で干渉を回避してください。

- 受信アンテナの方向を変える、または設置しなおす。
- 本機とテレビ受信機との間隔を離す。
- 本機をテレビ受信機とは別のコンセントに差し込む。
- ラジオまたはテレビの販売店または技師に相談する。

本機に対し NETGEAR が承認していない変更などを加えた場合、ユーザーの本装置使用権限が無効になる場合があります。

## カナダ通信省の無線障害規制

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI—B

## 欧州連合

ReadyNAS RAIDiator 5.x は EU EMC 指令 2004/108/EC および低電圧指令 2006/95/EC の基本条件を満たしており、以下の試験方法および標準に申請し、準拠しています。

- EN55022:2006 / A1: 2007
- EN55024:1998 / A1:2001 / A2 : 2003
- EN60950-1:2005 2nd Edition
- EN 61000-3-2:2006
- EN 61000-3-3:1995 w/A1:2001+A2: 2005

# 索引

## A

AFP [31](#)

## C

CIFS [31](#)

## D

DHCP [61](#), [62](#)

DNS [63](#)

## F

Flex-RAID [20](#)

## I

IP アドレス [61](#)

## J

JBOD [21](#)

## L

Linux を使って共有にアクセス [41](#)

## M

Mac OS X を使って共有にアクセス [40](#), [38](#)

MAC アドレス [61](#)

## O

OS 9 を使って共有にアクセス [40](#)

OS X を使って共有にアクセス [38](#)

## P

product registration [15](#), [16](#)

## R

RAID レベル [20](#)

RAIDar

LED アイコン [8](#)

ReadyNAS を検出する [9](#)

ダッシュボードを起動する [9](#)

RAIDar ボタン [9](#)

ReadyNAS Remote [42](#)

クライアントソフトのインストール [44](#)

有効にする [42](#)

ReadyNAS コミュニティ Web サイト [7](#)

ReadyNAS を検出する [9](#)

## S

SMB [31](#)

## T

Time Machine [100](#)

## U

Unix を使って共有にアクセス [41](#)

UPS [75](#)

USB ストレージデバイス [69](#)

## W

Windows を使ってアクセス [38](#)

## あ

アクセス権限 [31](#)

アドオン [66](#)

ReadyNAS Remote [66](#)

インストール済み [66](#)

インストールする [67](#)

管理する [66](#)

使用可能 [67](#)

スタンドアロン [68](#)

ブリインストール [66](#)

**い**

イーサネット **62**  
 インストール済みのアドオン **66**

**か**

## 監視

システム動作状況 **71**  
 システムログ **71**

## 管理者パスワード

復元する **58**  
 変更する **57**

**き**

## 共有

Linux を使って共有にアクセス **41**  
 Mac OS 9 を使ってアクセス **40**  
 Mac OS X を使ってアクセス **38**  
 ReadyNAS Remote を使って共有にアクセス **42**  
 Unix を使って共有にアクセス **41**  
 Windows を使ってアクセス **38**  
 アクセス権限 **31**  
 アクセスの微調整 **34**  
 削除する **37**  
 作成する **32**  
 表示する **33**  
 フォルダを作成する **35**  
 リモートアクセス **38**

**く**

クイックスタートガイド **7**

**け**

警告 **53**  
 言語 **56**

**さ**

サポート **2**

**し**

## システム構成

管理者パスワードの変更 **57**  
 警告イベントの設定 **55**  
 言語 **56**  
 送信先メールアドレスを変更 **54**  
 時計 **52**  
 日付と時刻 **52**

システムシャットダウン **60**

システム動作状況 **71**

システムログ **71**  
 シャットダウン **60**  
 使用可能なアドオン **67**  
 商標 **2**  
 初期設定 **12**

**す**

スタンドアロンアドオン **68**

**せ**

セットアップウィザード **12**

**た**

ダッシュボードを起動する **9**

**つ**

追加ドキュメント **7**

**て**

ディスクが同梱されていないモデル **7**

## ディスク構成

Flex-RAID から X-RAID2 に変更 **22**  
 Flex-RAID フォーマットを変更する **26**  
 X-RAID2 から Flex-RAID に変更 **24**  
 管理する **21**  
 ボリューム拡張 **21**

適合性 **102**

適合性に関するお知らせ **102**

デフォルトのパスワード **11**

デフォルトのユーザー名 **11**

デフォルトのログイン認証 **11**

電源管理 **74**

**と**

時計 **52**

## トラブルシューティング

IP アドレスの入カミス **62**  
 RAIDar が ReadyNAS デバイスを検出しない **10**  
 誤ったディスクの取り外し **9**  
 管理者パスワードの紛失 **59**  
 静的 IP アドレスの変更 **63**  
 静的 IP アドレスを失った後再接続する **63**  
 動的 IP アドレスの変更が早すぎる **62**  
 間違った IP アドレス **62**  
 ルーターで DHCP が作動しない **10**  
 ルーターで DHCP が無効 **10**

## ね

- ネットワーク設定 **61**
  - DHCP サーバー **62**
  - イーサネット **62**
  - ホスト名 **64**
  - ワークグループ **64**

## は

- ハードウェアマニュアル **7**
- パスワード
  - 管理者パスワードを復元する **58**
  - 既定 **11**
  - ユーザーパスワードを変更する **49**
- バックアップ
  - RAID 構成の場合 **77**
  - ReadyNAS システムに保存されたデータをバックアップ **80**
  - Time Machine **100**
  - 手動でジョブを開始 **98**
  - ジョブを削除 **97**
  - ジョブを編集 **96**
  - バックアップボタンを構成する **99**
  - ログを表示する **98**
- パワータイマー **74**

## ひ

- 日付と時刻 **52**

## ふ

- ファームウェア
  - リモートアップデート **72**
  - ローカルアップデート **73**
- ファイル共有プロトコル **31**
- ファイル名 **31**
- フォルダ
  - 削除する **36**
  - 作成する **35**
  - 名前をつける **31**
- 共有
  - フォルダを削除する **36**
- 復元
  - ReadyNAS システムにデータを復元する **84**
  - データをネットワーク接続デバイスに復元 **92**
  - ネットワーク接続デバイスに保存されたデータのバックアップ **88**
- 物理ボリューム **18**

## ほ

- ホスト名 **64**
- ボリューム **18**
- ボリューム拡張, ボリュームの拡張 **21**
- ボリュームスキャン **60**

## ゆ

- ユーザーアカウント
  - 作成する **47**
  - パスワードを変更する **49**
  - 削除する **50**
  - 編集する **49**

## ら

- ライフサポートモード **9**

## り

- リモート共有アクセス **38**

## ろ

- ログ
  - システム **71**
  - バックアップ **98**
- 論理ボリューム **18**

## わ

- ワークグループ **64**